

令和2年度 文部科学省委託事業
専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト

「部活動指導員養成事業」

成果報告書

令和3年2月

学校法人三幸学園
東京リゾート＆スポーツ専門学校

「成果報告書」刊行にあたって

実施委員長 昼間 一彦

令和２年度文部科学省委託事業である「部活動指導員養成事業」の成果報告書をお届けいたします。

昨年度に引き続き、事業実施にあたり多方面より多くの貴重なご示唆を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

当学園では2018年度より本委託事業を展開しております。初年度は本学園の保育分野における文部科学省委託事業の実績や同年３月スポーツ庁より公表された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を基に各自治体において展開される部活動指導員養成の研修情報を集約し、「教育」「安全管理」「指導法」「マネジメント」の４領域から公教育に携わる部活動指導員として汎用性のある資質を身につけることを目指す教材作成を進めて参りました。また、社会人の学び直し観点での利便性を考慮した特徴として、冒頭にシーンを想定できる物語を提示し、受講者自身が実際の指導現場をイメージしやすい構成で１ユニット５分ほどのeラーニング形式を採用しております。

３か年事業の最終年度にあたる今年度においては、分科会①「開発」で昨年度までのモニター調査の結果を踏まえ、指導法に関連する教材で実際の指導シーンにおいて活用できる写真素材の挿入や、マネジメント領域では先行して部活動指導改革に取り組んでいる中学・高校の事例を教材として取り上げました。また、多様な生徒を指導することを想定した「配慮が必要な子への対応」やチームづくりに繋がる「チームビルディング」、現場で活動する部活動指導員自身の環境に着目した「指導者自身の環境を整える」など新規教材の作成にも取り組むことができました。分科会②「普及」では、参画委員の所属機関を中心とした現役の運動指導者や部活動指導への将来的な参加を目指す学生・現役の学校教員を対象に、開発した教材の受講者を募りました。受講者にはアンケート調査を実施し、教材受講により部活動指導員として活動するための有効な学びを得ることができたか、eラーニングによる学び直し講座の効果的な活用についてイメージが持てるかを指標に、教材の質向上に向けたご意見を頂戴いたしました。また、完成した教材が多く部の活動指導員養成に役立てて頂けるよう、eラーニング教材を軸にした講習組み合わせの検討を進めて参りました。令和２年９月「学校における働き方改革推進本部(第４回)」において休日の部活動を令和５年度以降、段階的に地域へ移行していく方策が明言されました。指導や引率を担う地域人材確保に向けた今後の動きにおいて本事業のプログラムも貢献することができると考えております。

本報告書では、事業全体の流れにのっとり、各分科会の活動ごとに実施成果を記載しております。本成果が部の活動の現場で活用される今後の発展にむけ、参画者一同、尽力する所存です。

最後に、関係各位の本事業に対しますご理解とご指導に厚く御礼申し上げますとともに、皆様の今後のご支援とご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

構成機関

	構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	都道府県名
1	名古屋市教育委員会	開発	愛知県
2	東京未来大学	開発	東京都
3	立命館大学	開発	京都府
4	筑波大学	開発	茨城県
5	株式会社 R-body project	開発・普及	東京都
6	一般社団法人日本野球機構	普及	東京都
7	大塚製薬株式会社	普及	東京都
8	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	普及	東京都
9	一般社団法人日本フィットネス産業協会	普及	東京都
10	スポーツデータバンク株式会社	普及	東京都
11	株式会社ナザー	開発	埼玉県
12	札幌スポーツ＆メディカル専門学校	普及	北海道
13	仙台リゾート＆スポーツ専門学校	普及	宮城県
14	東京リゾート＆スポーツ専門学校	普及	東京都
15	横浜リゾート＆スポーツ専門学校	普及	神奈川県
16	大阪リゾート＆スポーツ専門学校	普及	大阪府
17	名古屋リゾート＆スポーツ専門学校	普及	愛知県
18	福岡リゾート＆スポーツ専門学校	普及	福岡県

事業責任者

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
屋間 一彦	学校法人三幸学園 理事長	統括	東京都

事務局

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
高岡 昌弘	学校法人三幸学園 統括部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括・編集	東京都

実施委員

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
昼間 一彦	学校法人三幸学園 理事長	総括	東京都
森岡 孝之	学校法人三幸学園 理事	総括	東京都
大橋 一夫	名古屋市教育委員会 生涯学習課 部活動振興係 主任指導主事	普及	愛知県
藤後 悦子	東京未来大学 こども心理学部 教授 こども心理専攻長	開発	東京都
中西 純司	立命館大学 産業社会学部 教授	開発	京都府
平岡 拓晃	筑波大学 体育系 体育センター 助教	開発	茨城県
井原 敦	一般社団法人日本野球機構 事務局長	普及	東京都
岩渕 健輔	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 専務理事	普及	東京都
鈴木 岳	株式会社 R-body project 代表取締役	開発	東京都
松村 剛	一般社団法人日本フィットネス産業協会 事務局長	普及	東京都
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社 取締役	普及	東京都
新田 広一郎	大塚製薬株式会社 執行役員	普及	東京都
高岡 昌弘	学校法人三幸学園 統括部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括・編集	東京都

分科会①【開発】

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
藤後 悦子	東京未来大学 こども心理学部 教授 こども心理専攻長	開発	東京都
大橋 恵	東京未来大学 こども心理学部 教授	開発	東京都
井梅 由美子	東京未来大学 こども心理学部 准教授	開発	東京都
中西 純司	立命館大学 産業社会学部 教授	開発	京都府
平岡 拓晃	筑波大学 体育系 体育センター 助教	開発	茨城県
荒井 秀幸	株式会社 R-body project テクニカルディレクター	開発	東京都
西川 塁	株式会社ナズー アスレティックトレーナー	開発	埼玉県
高岡 昌弘	学校法人三幸学園 統括部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括・編集	東京都

分科会②【普及】

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
井原 敦	一般社団法人日本野球機構 事務局長	普及	東京都
嶋 理恵子	一般社団法人日本野球機構 野球運営本部 課長	普及	東京都
岩渕 健輔	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 専務理事	普及	東京都
松村 剛	一般社団法人日本フィットネス産業協会 事務局長	普及	東京都
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社 取締役	普及	東京都
小崎 順平	大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部	普及	東京都
早坂 達	札幌スポーツ＆メディカル専門学校 副校長	普及	北海道
寺澤 正典	仙台リゾート＆スポーツ専門学校 副校長	普及	宮城県
斎藤 政臣	横浜リゾート＆スポーツ専門学校 副校長	普及	神奈川県
小久保 和紀	名古屋リゾート＆スポーツ専門学校 副校長	普及	愛知県
渡邊 慧	大阪リゾート＆スポーツ専門学校 副校長	普及	大阪府
會田 隆太	福岡リゾート＆スポーツ専門学校 副校長	普及	福岡県
高岡 昌弘	学校法人三幸学園 統括部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括	東京都

【目次】

事業概要

I.	これまでの取り組み	2
II.	2020 年度事業計画概要	3
III.	事業実施体制	7

各分科会報告

I.	分科会①【開発】	
1.1	分科会① 概要	10
1.2	学習プログラム改修	10
1.3	学習プログラム開発	11
	(1) 学習プログラム内容の概要	
	(2) e ラーニングシステムの概要	
	(3) e ラーニング学習の流れ	
II.	分科会②【普及】	
1.1	分科会② 概要	26
1.2	実証	26
	(1) 実証	
	(2) 学習プログラムを活用した部活動指導員養成講習イメージの検討	
	総括及び将来の展望	35
	成果報告会当日資料	49

事業概要

I. これまでの取り組み

東京リゾート＆スポーツ専門学校では2018年より専門スタッフの介入による教員の働き方改革・部活動環境の整備を目的に、部活動指導員養成のための学習カリキュラム作成に関する文部科学省委託事業を展開してきた。

同じく文部科学省委託事業で2014年から継続して社会人向け学びなおし事業に取り組んでいる姉妹校の東京こども専門学校の保育分野実績をもとに、社会人を対象としたリカレント教育に適した教材の仕様に関する情報収集や、既に全国都道府県・市区町村で実施されている部活動指導員向け研修の実態に関する情報収集と分析を中心に事業を開始した。

保育分野の先行検証結果より、社会人の学びなおしに適した教材の仕様について整理を行った。社会人の学びなおし講座における課題感として、「費用・時間・実用性」という点に意見が集中しており、費用に関しては委託事業内成果物という位置により、永続的に無償で公開となるため「時間・実用性」に着目した教材の仕様とした。「時間」については多忙な社会人が手軽に取り掛かることのできるものを目指し、短時間で学習ができるものとした。その中でも様々なデバイスで受講が可能であるeラーニング形式を取り入れることで受講者の利便性と管理者の確実性とのメリットを追求した。「実用性」においてはケーススタディを中心に据えた構成を基本とし、部活動指導員現場で起こりうる事例や、見落としがちな事例などを織り交ぜながら理解を深められるような内容とし、冒頭ではユニット単元での学習のねらいを提示することによって、学習の到達点の自己認識と学習意欲の向上を狙った構成としている。

各都道府県や市区町村での部活動指導員養成用の研修の調査より教材の内容を決定した。部活動は学校教育活動の一環であるという前提から、学校現場の体制理解や教職員との連携の重要性、幼少期・思春期にみられる生徒の特性、背景にある家庭環境の理解など教育現場で活動をする素地を身に着ける「教育」、学校現場で想定される事故のリスクへの事前対応や、有事の際の対応フロー、怪我の発生時の基本対応などを学ぶ「安全管理」、現代に見合ったコーチングスキルで、個々の発育段階に応じた科学的な指導法を提供できるようになることを目指す「指導法」、個人・集団様々なシーンにおいて部活動指導員としてのマネジメント基礎を学ぶ「マネジメント」の4つの領域で構成されている。

事業初年度である2018年度は分科会①「開発」において学習プログラムのイントロダクションを含む46ユニットの教材を作成した。プログラム内容は学校教育に携わるために必要な基礎知識を中心とし、「学校の組織的理解」や「部活動の位置づけ」等のタイトルとなっている。また、分科会②「普及」において作成したプログラムを現役のスポーツ指導者・スポーツ指導者を目指して専門学校に通っている学生315名に受講してもらい、実証を行った。

事業2年目となる2019年度は分科会①「開発」において3分野52ユニットを作成した。プログラム内容は部活動指導における基本原則、事前事後の安全管理に関するものを中心に作成し、「トレーニング基礎」、「ジュニア期における身体構造の基礎知識」、「けがに対する手当」等のタイトルになっている。また分科会②「普及」において2019年までに作成したプログラムの実証を2976名に対して行った。2年間での累計は98ユニットの教材作成と3,291名への実証実施となっている。

II. 2020 年度事業計画概要

2020 年 5 月時点における事業計画書の抜粋を以下に記載する。

1. 講座の学習ターゲット・目指すべき人物像

想定する対象者は学校教育における部活動指導に関心のある者で、生徒の安全確保を第一に考え、適切な指導観点を持った部活動指導員として活躍できる人材の育成を目指す。

2. 事業を推進する上で実施する会議

会議名①	実施委員会		
目的	2 つの分科会の作業進捗確認、成果目標および達成状況の確認		
検討の 具体的内容	・ 本事業の目的及び全体像共有 ・ 各分科会及び委員の役割の明確化 ・ 事業計画書に沿ったスケジュールの確認 ・ e ラーニング開設までの一連のプロセスのガイドラインとして集約の方向性について		
委員数	14 人	開催頻度	2 ～ 3 回

会議名②	分科会①【開発】		
目的	・ 事前調査 ・ カリキュラム開発		
検討の 具体的内容	・ 開発する教育プログラムについて詳細を検討 ⇒教育プログラムの仕様・学習内容・提供方法等 ・ 検討事項の本事業への活用・影響（想定）		
委員数	9 人	開催頻度	2 ～ 3 回

会議名③	分科会②【普及】		
目的	・外部機関への協力要請 ・実証講座準備及び実施		
検討の 具体的内容	・実証講座の対象者選定及び受講依頼 ・受入時期及び期間 ・部活動及び分科会へのフィードバック等について受入機関と調整 ・自治体及び団体での普及および活用促進 ・開発した教育プログラムの改善点抽出		
委員数	15 人	開催頻度	2～3 回

3. 社会人の学び直しを推進するために実施する工夫の概要

【学園の在校生・卒業生】

■リゾートアンドスポーツ専門学校：

全国 10 拠点、スポーツインストラクターを養成している専門学校（累計卒業生数は 26,000 人超）。在校生対象に部活動指導員の資格に対する取得希望を調査した際、68%が「取得したい」と回答し、資格取得に前向きな姿勢が伺われた（図 1 参照）。ここから卒業生のなかに、部活動指導員に対し高い関心を持つ社会人が多数いると想定される。

<想定される具体的な連携内容>

- ・事前調査への協力要請

例）専門学校卒業生の就職先・実習先でつながりのある企業・団体への回答依頼及び後追い

- ・実証講座への協力

例）上述した企業・団体への実証講座の受講生受入依頼

対面講座実施のための教室提供

部活動指導員として活動するための資格が
制定された場合、取得したいですか (%)

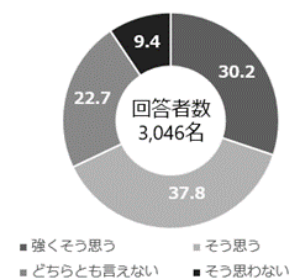


図 1 部活動指導員への
興味関心を問う質問への回答

【参画企業の既存の取り組み（一部）】

■スポーツデータバンク株式会社

顧問教諭に代わる部活動指導員のマッチング・派遣の実績を有する企業。尚、取締役・石塚氏はスポーツ庁発表「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議」委員を任命されている。

<想定される具体的な連携内容>

- ・事前調査への協力

例) 対象者（学校の部活動顧問、すでに活躍している部活動指導員）へ

事前調査の回答依頼

- ・カリキュラム作成における助言及び教育プログラムの学習内容に資する情報の提供

例) 部活動指導員に要求される知見やノウハウ、受入校からよく聞かれる

質問や要望等の情報提供

【参画団体の既存の取り組み（一部）】

■公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

競技普及、年代に応じた適切な指導の周知、安全対策・応急処置の周知など

<想定される具体的な連携内容>

- ・カリキュラム作成における助言及び教育プログラムの学習内容に資する情報の提供

例) 競技・年代に応じた効果的・効率的な指導方法についてのノウハウ提供、

チームビルディング、生徒対応に関する教材の事例提供、

安全対策・応急処置に関する教材提供及びヒヤリハット事例の提供

■名古屋市教育委員会

名古屋市内 133 校の小学校において部活動指導員の活動を開始。

2020 年度においては約 900 名の部活動指導員が活動をしている。

<想定される具体的な連携内容>

- ・カリキュラム作成・活用における助言及び教育プログラムの学習内容に資する情報の提供

例) 自治体実施の任用前研修情報の提供

リフレッシュ研修計画に関する情報交換

4. 事業実施に伴う成果物（成果報告書を除く）

■3 か年を通じた成果物

①事前調査の集計・分析結果

社会人が実施しやすいと感じる学び直しの教材・提供方法等の調査結果を集約し、部活動指導員に関心のある層の特定、及びどのような研修形態・カリキュラムが希望されているかを明らかにする。調査対象を専門学校在校生・卒業生、教育委員会、各自治体の人材バンク登録者、学校の部活動顧問、すでに活躍している部活動指導員及び部活動指導員の派遣事業を実施している企業・団体と広く設定したうえで調査実施・結果を分析することで、より多角的な視点から学び直しを捉えられると想定される。

②体系的な部活動指導員養成学習プログラム開発

「教育」「指導法」「安全管理」「マネジメント」の4分野にわたる学習プログラムを開発。またプログラムと対面講座の組み合わせ、任用前研修、任用後のリカレント教育などプログラム活用パターンの整理を実施。

③eラーニング講座開設ガイドライン

本事業により得たeラーニング講座開発のノウハウを、ガイドラインとして集約。多様な専門学校において社会人の学び直しを提供する手段としてeラーニング開設を検討する際の判断基準や社会人の学び直しの観点で重要となる要素等を含めた手引書を作成する。

④他の専修学校においても実施可能なモデル構築

本事業において実際に自治体・学校と連携することで、他の専修学校で実施可能なモデルを構築する。とくにeラーニング教材については本事業終了後も無償公開となることから、主に専修学校における部活動指導員養成研修に活用できるよう普及させる予定。また対面講座においてはeラーニング学習プログラムとの組み合わせ活用パターンなどを整理。
尚、行政（自治体）に対しても副次的に活用を提案していく。

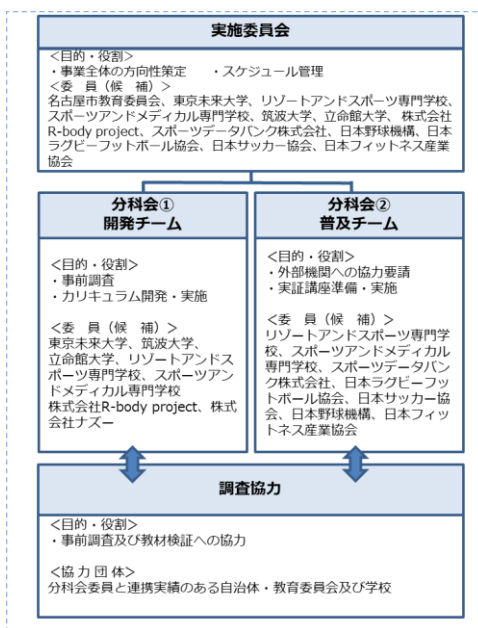
Ⅲ. 事業実施体制

本事業は全体の方向性を策定し、進捗管理を行う実施委員会のもと、2つの分科会がワーキンググループを組織し、連携を取ることで推進していく。

2つの分科会はそれぞれ、eラーニング学習プログラムの開発を行う分科会①「開発」と、作成したプログラムの実証及び普及を行う分科会②「普及」である。

事業実施における体制図は次の通りである。

図1 事業実施体制図



各分科会報告

I. 分科会①【開発】

1.1 分科会① 概要

今年度の分科会①の活動について、各側面に沿って記載する。

1)改修点の抽出

事業開始から 8 月にかけて、前年度開発教材の実証アンケートをもとに改修点の抽出を行い、2020 年度作成教材の方向性の策定を実施した。

2)新規作成

分科会において、改修点の確認並びに 2020 年度教材の作成項目及び担当者の選出を行った。
シナリオ→映像化を経て作成者および識者の確認のもと修正を行い、2 月に最終版の完成を迎えた。

1.2 学習プログラム改修

■【参考】 2018 年度事業実証を経て 2019 年度作成教材に反映した改修点

2018 年度に実施した実証及び識者による教材受講から抽出した意見を基に次のような改修点を決定した。

① 教材タイトルの改修

- ・2019 年作成内容との接続性を意識した改修
- ・学習内容がイメージしやすいよう意識した改修

例) 新しい時代にふさわしいコーチング (2018) →部活動指導とコーチング原理 (2019)

事後対応 (2018) →部活動の運営 (事後対応と再発防止) (2019)

② 冒頭部分の改修

- ・具体的に部活動現場におけるシーン想定ができるように、冒頭部分の会話にナレーションを追加 (ナレーターを増員し、男女別で分ける工夫をした)

③ 出典・引用元の反映

- ・より学びを深めるための誘導として、受講サイト内に掲載していた関連書籍や参考文献などの情報を動画内に記載

④ その他誤字・表現など軽微な修正

■2019 年度事業実証を経て 2020 年度教材作成に反映した改修点

2019 年度に実施した実証及び識者による教材受講より抽出した意見をもとに決定した改修点について下記に記載する。

①運動動作や受傷の様子など文面での表現が難しい内容において写真を追加

→「部活動におけるトレーニングプログラミング」において複数運動動作の写真を掲載

②全国での活動や取り組み事例などの教材化

→「部活動改革の取り組み事例」において全国 3 校の事例を教材化

③1 年間の指導の流れを想定できるような教材の制作

→「年間トレーニング計画の策定」において、年間指導計画を立てるために必要なポイントを網羅

1.3 学習プログラム開発

(1) 学習プログラム内容の概要

2018 年～2020 年度に開発したプログラムについて以下に記載する。

①【参考：2018～2019 年度作成教材】

■「学校の組織的理解」(2 ユニット)

- ・学校運営における組織体制
- ・組織における校務とその概要

■「スポーツの文化的理解」(3 ユニット)

- ・近代スポーツの誕生と発展（スポーツの文明化）
- ・文化としてのスポーツの価値
- ・人間とスポーツのかかわり（豊かな生活）

■「部活動の位置づけ」(9 ユニット)

- ・学校の場に関連する法規
- ・教育制度と部活動
- ・課外活動（部活動）の位置づけ
- ・部活動の教育的意義
- ・部活動の社会的意義
- ・部活動を取り巻く社会的変遷
- ・部活動の現状
- ・部活動の課題①
- ・部活動の課題②

■「部活動指導員の職責と自覚」(6 ユニット)

- ・部活動指導員の役割
- ・部活動指導員の倫理
- ・指導者としてのマナーと人格
- ・部活動指導員が起こしうる問題①「ハラスメント」
- ・部活動指導員が起こしうる問題②「ひいき」
- ・部活動指導員が起こしうる問題③「発達段階の理解不足」

■プレイヤー（児童・生徒）の理解（6 ユニット）

- ・児童・生徒の身体的発達
- ・児童・生徒の精神的発達（児童期の発達）
- ・児童・生徒の精神的発達（思春期の発達）
- ・学校生活の理解（教師との関係）

- ・ 学校生活の理解（仲間との関係）
- ・ 家庭生活の理解

■部活動の運営Ⅰ（管理）（4 ユニット）

- ・ 活動計画の作成
- ・ 教諭等との連携
- ・ 関係団体との連携
- ・ 事務手続き

■部活動の運営Ⅱ（指導）（2 ユニット）

- ・ 生徒の活動観察と実技指導
- ・ 目標を設定しない柔軟な指導

■部活動の運営Ⅲ（安全管理と法的責任）（3 ユニット）

- ・ 教育現場における安全管理の法的責任
- ・ 教育現場における安全管理の義務
- ・ 部活動における負傷・疾病の実態

■部活動の運営Ⅳ（安全管理体制の構築）（3 ユニット）

- ・ 学校における体制整備（緊急事態発生時の体制）
- ・ 施設・設備・用具の安全点検と安全管理
- ・ 生徒の健康管理

■部活動の運営Ⅴ（事後対応と再発防止）（2 ユニット）

- ・ 情報の整理
- ・ 報告・再発防止等

■部活動指導とコーチング原理（5 ユニット）

- ・ スポーツのコーチングと人間形成
- ・ スポーツのコーチング
- ・ コーチングに必要な知識・技能
- ・ スポーツの基本原則
- ・ スポーツにおける暴力根絶に向けて

■部活動指導とハラスメント（6 ユニット）

- ・ スポーツにおけるハラスメントの捉え方とその具体例
- ・ 部活動指導に見られるハラスメントの実態
- ・ 部活動でのハラスメント発生要因

- ・ハラスメントに関する一般的な法律
- ・部活動でのハラスメントが生徒に与える影響
- ・部活動指導においてハラスメントを発生させないために

■部活動指導とコーチングテクニック（8 ユニット）

- ・コーチングの心構え
- ・技術指導における効果的指導法
- ・コーチに必要なコミュニケーション能力Ⅰ
- ・コーチに必要なコミュニケーション能力Ⅱ
- ・医・科学現場の知見の反映
- ・中学期以降におけるコーチングⅠ
- ・中学期以降におけるコーチングⅡ
- ・指導者のあるべき姿

■部活動指導とメンタルマネジメント（8 ユニット）

- ・モチベーションとは
- ・モチベーションを高める方法①原因帰属理論
- ・モチベーションを高める方法②目標設定理論
- ・モチベーションを高める方法③ほめ方・しかり方
- ・メンタルマネジメントと競技不安
- ・競技不安を低める方法①メンタルトレーニング
- ・競技不安を低める方法②森田療法の活用
- ・競技不安を低める方法③自律訓練法と筋弛緩法の活用

■トレーニング基礎（7 ユニット）

- ・体力とは①概念
- ・体力とは②狭義の行動体力の種類と特性
- ・体力とは③体力に含まれるスキルとは
- ・トレーニングの原理・原則
- ・トレーニング処方の考え方①
- ・トレーニング処方の考え方②
- ・トレーニングと疲労およびその回復

■ジュニア期における身体構造の基礎知識（8 ユニット）

- ・機能解剖①上半身
- ・機能解剖②脊柱・体幹
- ・機能解剖③下半身
- ・発育発達期の身体的特徴

- ・ 発育発達に応じた運動指導
- ・ 発育発達期に多い怪我
- ・ 女性競技者の身体的特徴①
- ・ 女性競技者の身体的特徴②

■救命・救急処置（応急手当）（3 ユニット）

- ・ 救助者の自覚
- ・ 手当の基本
- ・ 現場での留意点

■一次救命処置（BLS）（6 ユニット）

- ・ 救急救命の流れ
- ・ 心肺蘇生法の重要性
- ・ 気道確保と回復体位
- ・ AED を用いた除細動と心肺蘇生法
- ・ 気道異物除去
- ・ 熱中症対応

■けがに対する手当（5 ユニット）

- ・ きず（開放性と非開放性のきず）
- ・ 止血
- ・ 骨折
- ・ 頭頸部のけが
- ・ RICE 処置

②【2020 年度作成教材】

■「部活動におけるトレーニングプログラミング」(担当：西川 壘)

部活動現場で必要とされるトレーニング計画、また立案に必要な基礎知識を中心に収録した。動作に関連する写真も多数使用している。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
年間トレーニング計画の策定	5	トレーニングの成果を挙げるために重要な点は、事前に周到な計画を立てることであり、トレーニング計画の立案方法やポイントを理解する。	トレーニングプログラム作成の全体的手順を理解しよう トレーニングの時間構造と中・長期計画について理解しよう ピリオダイゼーションの概念やバリエーションを理解しよう
形態・体力測定	5	トレーニング指導の実態や変化を客観的にとらえ、適切な目標設定や効果測定に活用する。	測定の目的と一般的な留意点について理解しよう 形態と身体組成、筋力・筋パワーの測定・評価について理解しよう ジャンプカ、スプリント、アジリティ、柔軟性、持久力、その他の測定・評価について理解しよう
ウォーミングアップとクールダウン	5	ウォーミングアップ、クールダウンの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	ストレッチの種類と目的について理解する ウォーミングアップの分類と効果、プログラミングについて理解する クールダウンの効果とプログラミングについて理解する
コアトレーニング	5	コアトレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	コアを安定させる基本的なエクササイズ（フローイン、ブレイシング）について理解する ファンクショナルトレーニングの原理原則を理解する 体幹トレーニングの基礎、プログラミングについて理解する
筋力トレーニング	5	筋力トレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	筋力トレーニングのプログラミングについて理解する トレーニング目的に応じた条件設定、ピリオダイゼーションについて理解する 代表的な筋力トレーニングの方法とプログラミングについて理解する
持久系トレーニング	5	持久系トレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	有酸素性持久力向上トレーニングについて理解する 無酸素性持久力向上トレーニングについて理解する 代表的な持久力を向上させるトレーニング方法とプログラミングについて理解する
スピード・アジリティトレーニング	5	スピード・アジリティトレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	スピードにおける基本動作や動作テクニクについて理解する 代表的なスピードトレーニングの方法とプログラミングについて理解する 代表的なアジリティトレーニングの方法とプログラミングについて理解する
爆発的パワートレーニング	5	爆発的パワートレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	パワーの基本概念やパワーの発揮モードについて理解する 代表的なパワートレーニングの方法とプログラム変数、プログラミングについて理解する 代表的なプライオメトリクスの方法とプログラミングについて理解する

■「チームビルディング」(担当：大橋 恵)

部活動という集団に目を向け、勝敗や技術の習得に限らない活動を通したチームづくりに着目し、内容を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
部活動という集団	5	教育の一環である部活動においては、生徒たちが集団としてまとまり活動していくことが大切であることを理解する。そのために指導者にできることについて考える。	部活動は集団であり、集団規範が働くことを理解する 部員同士で働く、社会的促進について理解する 集団としてまとまりを育てることの重要性を理解する
目標の設定	5	集団としてのまとめるために、適切な目標を設定し、規範形成に配慮するなど具体的に学ぶ。	熟達雰囲気（成績）の重要性を理解する（成績雰囲気と対比させて） 目標を持つことの大切さについて理解する 自分で決めたことならモチベーションが維持されやすいことを理解する
リーダーシップ	5	部活動のリーダーである指導者には、「目標達成能力」と「集団維持能力」の2つの能力が必要であることを理解する	部活動指導員は、部活においてリーダーとして影響を与える存在であることを理解する リーダーの二つの機能（P機能とM機能）について理解する 専制的なリーダーはメンバーのモチベーションや結束力を低下させるケースが多いことを理解する
自主性のあるチームとは	5	部活動は、生徒たちの主体的な活動であるべきである。生徒たちが主体性を発揮できる工夫について学ぶ。	自分で決めたことならモチベーションが維持されやすいことを理解する 集団としての効力感を持たせること なるべく部員たちに意見を聞き、部員たちに決めさせよう

■「配慮が必要な子への対応」(担当：藤後 悦子)

部活動という集団の中で、コミュニケーションに苦手意識がある生徒、指示の理解が難しい生徒などを適切に把握しそれぞれに応じた対応を学べる内容を収録。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
コミュニケーションが苦手な子	5	コミュニケーションが苦手な生徒、友達とうまく協力できないなど社会性に課題がある生徒の背景を理解する。	①相手の気持ちを想像することが難しい（他者理解の不足）。 ②自分の思う通りにやりたいという衝動性を押さえるのが難しい（衝動性）。 ③客観的に物事を把握することが難しく、思い込みや一度決めたことにとらわれてしまう（思考の固さ）
コミュニケーションが苦手な子への対応	5	コミュニケーションや社会性に課題がある子ども達への対応の仕方の工夫点について学ぶ。	①相手の気持ちが見えるような気持ちをセリフとして図にしたり、言葉で説明してあげる。 ②グループ作業の場合、発言時間を同じにするなど工夫したり、ルールから外れた行動の際は、すぐに止めて気づかせる。 ③勝ったとき、負けたときの態度やトラブルになった時の対応を決めておく。例えば、すぐに次のゲームをして気分転換させるなど。
指示の理解が難しい子	5	指導者の指示や部活動のルールの理解に困難を抱える生徒の背景を理解する。	①ルールは理解しているが、記憶の力が弱くてすぐに忘れてしまいます（記憶）。 ②ルールのそのものの理解が難しい（理解力）。 ③集中力が続かない（目に入る周りの刺激や周りの音が気になり話に集中できない）。
指示の理解が難しい子への対応	5	指導者の指示や、ルールなどの伝え方の工夫としての視覚的・聴覚的・触覚的・嗅覚的・味覚的・体感的刺激の活用、環境調整などを具体的に学ぶ。	①毎回先にルールを確認する。ルールは守れたらできたらすぐに褒める。 ②視覚的情報を有効に活用する（例：フラッシュカードを用いて、視覚的に座る場所を分かるようにする）。 ③短い言葉で伝え、あいまいな表現は避ける。
不器用な子	5	不器用な生徒が抱える困難さや発達協調性運動障害の子どもの特徴などを理解する。	①自分の身体の位置などがわからない。ボディイメージが形成されていない。 ②2つのことを同時で行うことが難しい。協応性の問題がある。 ③固有覚や前庭覚に課題がある。
不器用な子への対応	5	子どもの不器用さに対する指導の工夫、環境調整の工夫などを具体的に学んでいく。	①スモールステップで課題を細分化する。できたらすぐに褒めるなどの肯定的フィードバックをする。 ②事前確認として活動の前に、動作を先生や友達のマネをイメージをつかむ。 ③固有覚や前庭覚を鍛える基本的な運動遊びを日常的に取り入れる。 例：ジャングルジムをくぐる。ブランコで振動運動。ぶら下がるなどの雲梯遊び。力のコントロールができる借りぐらまんじゅうなど。

■「指導者自身の環境を整える」(担当：井梅 由美子)

部活動現場で活動する上で大切な自身の環境を整えるために必要な教材として自身の性格を把握する内容や、ストレスマネジメントの考え方などを収録。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
自己理解の重要性	5	生徒とのコミュニケーションをとるうえで、自身の性格特性を知っていることは重要です。自己理解を深めましょう。	エゴグラムを用いて、自分自身の性格を知ることができる。 CPIは批判的な親、NPIは養育的な親の側面（傾向）を表している。 それぞれの傾向には良い面・悪い面がある。自身の特徴を知り、活かすことが望ましい。
スポーツ観とは	5	自身のもっているスポーツ観について、考えてみましょう。	スポーツ観とは、自身のもっているスポーツに対する態度や価値観である。 スポーツ活動への参加動機は個人によってさまざまである。 勝利至上主義的なスポーツ観は体罰等さまざまな弊害を生じさせる。
ストレスマネジメント	5	ストレスとの上手な付き合い方について、学びましょう。	ストレス発生の流れは「ストレッサー」→「評価」→「ストレス反応（心身）」である。 ストレスをマネジメントするために（上の）それぞれの段階での対処方法（コーピング）がある。 「評価」へのコーピングとして、ストレスを感じたときの状況を書きだしてみる。
ワークライフバランス	5	自身の生活と仕事（キャリア）のバランスについて、考えてみましょう。	ワークライフバランスは私たちがより良く生きる（well being）ことを目指す上で重要である。 人生の各段階に応じて、多様な働き方の選択を可能とする仕事と生活の調和が望まれる。 家族やパートナーとともにそれぞれのワークライフバランスを話し合うことが重要である。

■「ホワイト部活動の創り方」(担当：中西 純司)

生徒の自主的・自発性を育む部活動組織を目指す為に必要なかわり、また部活動指導員のコンピテンシーについて収録。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
生徒の「自治」と多様なニーズを基調とする部活動マネジメントの基本	5	部活動マネジメントの基本的な2つの考え方について理解し、「ブラック部活動」(内田, 2017) から「ホワイト部活動」(佐藤ほか, 2019) への改革の重要性について学習する。	指導者(顧問)が部活動マネジメントを指導・支援していくうえで、①スポーツ活動が展開される「コートの中」(チーム=集団)と②スポーツ活動から離れて部を運営する「コートの外」(クラブ=組織)との関係性を理解しておく必要がある。 「コートの中」の部活動マネジメント(チームマネジメント)と「コートの外」の部活動マネジメント(クラブマネジメント)のバランスを図っていくためには、校内(校務分掌)に「部活動運営組織」(部活動推進会議など)を設置することが肝要である。 部活動運営組織は、学校側の組織(顧問会議など)と生徒側の組織(生徒会体育部など)によって構成され、生徒の多様なニーズに対応した、部活動の目標設定と運営方針の検討・決定を行う必要がある。
生徒の自主的・自発的な参加・協働に基づく部活動マネジメントの推進	5	生徒の自主的・自発的な参加・協働に基づく部活動マネジメントを推進するために、指導者(顧問)が習得しておくべき「マネジメントテクニク」(部内のリーダー育成や役割分担など)について学習する。	部活動マネジメントでは、教育活動の一環として、生徒の自主的・自発的な参加と協働を促すような取組を指導・支援することが必要である。 生徒主体の部活動マネジメントを実現するためには、部内のリーダー育成と役割分担、および学年間の交流を通じて生徒の自治能力を養う必要がある。 生徒主体の部活動マネジメントの基本は、指導者(顧問)が生徒自身で決める事項を設定し、生徒に考えさせる工夫をすることである。
生徒の自主性・自発性を育む部活動「支援」とは	5	部活動マネジメントにおける指導者(顧問)の「管理」でもなく、「放任」でもない、「支援」という最も難しい働きかけと配慮の仕方の機微に迫る。指導とは似て非なる「支援」とは何かを真剣に考える。	支援とは、管理(強制)でもなく、放任(自由)でもない、両者のバランスが求められる人間的行為である。 支援は、他者の行為の意図や目的を理解したうえで働きかけと配慮が前提となる。 支援は、他者の行為の質を維持・改善する一連のアクションであり、他者のエンパワーメント(自立性・自律性)を促すことが重要である。
顧問(部活動指導員)に求められる「コンピテンシー」とは	5	指導者(顧問)が部活動マネジメントを実践していくうえで求められる「コンピテンシー」とは何かを学習する。	コンピテンシーとは、職能ないしは専門的力量を意味し、「特定の課題を遂行する、あるいは明確な職務や役割を引き受けることのできる人間の適性・資質や知識・能力」である。 部活動指導員には、①教育者適性能力、②指導・コーチング能力、③スポーツの経営能力、④ホスピタリティ能力といった4つのコンピテンシーが求められる。 部活動指導員のコンピテンシー獲得・形成は、生徒主体の部活動マネジメントを推進するうえできわめて重要である。

■「部活動改革の取り組み事例」(担当：中西 純司)

先進的な取り組みによって部活動改革に取り組んでいる全国の事例を教材として収録。総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団とのかかわりを学ぶ。

分野	タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
マネジメント	中学校部活動を支える総合型地域スポーツクラブ ー長野市立東北中学校ー	5	中学校の運動部活動のサポート(支援)を総合型地域スポーツクラブが行っている事例について学ぶ。	生徒のニーズや声に応え、総合型地域スポーツクラブが部活動支援を行っている。 1つの中学校単位では部活動を維持できない状況を「スポコミ東北地域クラブ」によってサポートしている。 学社連携型部活動の先進的な事例である。
マネジメント	スポーツ少年団と一体化した中学校部活動 ー仙台市立大沢中学校ー	5	スポーツ少年団(中学生団員)と中学校部活動(野球部)とが密接に連携して部活動運営を行っている事例について学ぶ。	生徒を中心に、学校ー地域ー保護者の連携・協力関係が形成されている。 学校の教育活動を理解した良好な連携・協力体制が維持されている。 中学校区内の2つの小学校とも連携し、3校合同練習会が年2回実施されている。
マネジメント	学社融合で豊かなスポーツライフを実現する高校部活動 ー大阪教育大学附属高等学校平野校舎ー	5	児童生徒の豊かなスポーツライフの実現をめざして、高校教員が率先して部活動と総合型地域スポーツクラブの融合を図ろうとする先駆的な事例を学ぶ。令和5年度以降の「地域部活動」(スポーツ庁)に対応した希少な事例でもある。	大学附属の強みを活かし、小・中・高の教員間連携・協力による部活動改革である。 高校卒業生(OB・OG)の部活動支援と生徒会組織を活かした部活動改革である。 PTA組織および近隣住民の参加と協力に基づく総合型地域スポーツクラブの育成でもある。

③【2020 年度作成教材イメージ】

「コミュニケーションが苦手な子への対応」

なんで負けたのよあなたたちのせいでしょ!

Aさん、落ち着いて。そうだ、次のゲームがもう始まるよ。

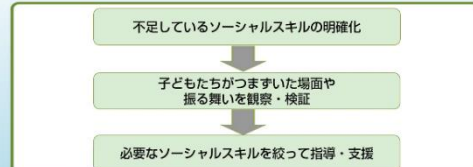
え、本当だ! 次こそがんばる!

先生すごいですね!Aさんがすぐに気持ちを切り替えた。どうしてこういうことができるんですか?

支援の際の注意点



ソーシャルスキルを補う支援



発言に時間がかかってしまう・他の子どもの言葉を遮る



「生徒の自主性・自発性を育む部活動「支援」とは」

学習のねらい

- ・ 部活動マネジメントにおける指導者(顧問)の「管理」でもなく、「放任」でもない、「支援」という最も難しい働きかけと配慮の仕方の機微について学びましょう。
- ・ 指導とは似て非なる「支援」とは何かについて、真剣に考えてみましょう。

管理

物事を能率的または円滑に進めるために、
全体の統制を図ること



相手の意思や目的は
関係ない

放任

相手に干渉せず、やりたいようにやらせること



「支援」の構成要素

- ・ 他者(被支援者)の行為に対する働きかけ(配慮)が前提
- ・ 他者の行為の意図や目的を理解すること
- ・ 他者の行為の質を維持・改善する一連の行動であること
- ・ 他者の自立性・自律性(エンパワメント)を促すこと

部活動における生徒への「支援」の条件

- ・ 生徒(部員)の意図・目的を優先し、顧問の意図・目的を前面に出さないこと(恩着せがましくなる)
- ・ 生徒への押しつけにならないようにすること(余計なお節介、大きなお世話)
- ・ 生徒の自助努力を損なわないようにすること(依存体質や甘えをつくってしまう)

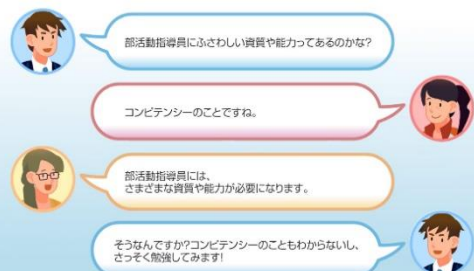
「顧問（部活動指導員）に求められるコンピテンシーとは」

学習のねらい

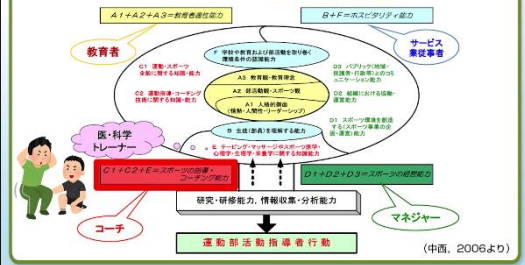
指導者（顧問）が部活動マネジメントを実践していくうえで求められる「コンピテンシー」とは何かについて学びましょう。

コンピテンシー

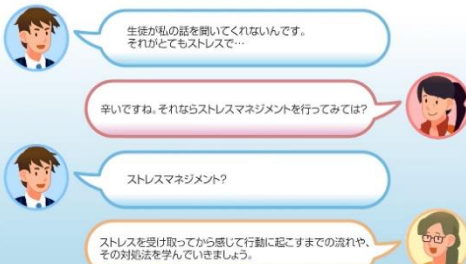
- 特定の課題を遂行したり、明確な職務や役割を引き受けることのできる人間の適性・資質や知識・能力のことであり、「職能」と言ってもよい。
- 価値観・動機・性格など目に見えないものが重視される傾向にある。



部活動指導員に求められる「コンピテンシー」とは？

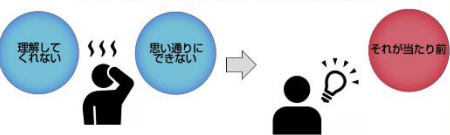


「ストレスマネジメント」

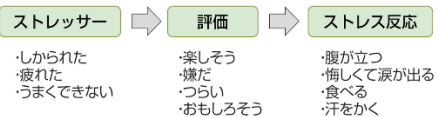


評価へのコーピング

1. ストレッサーそのものを当たり前だと捉える

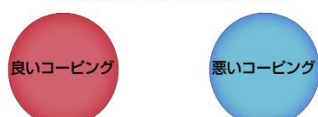


ストレスを感じる流れ

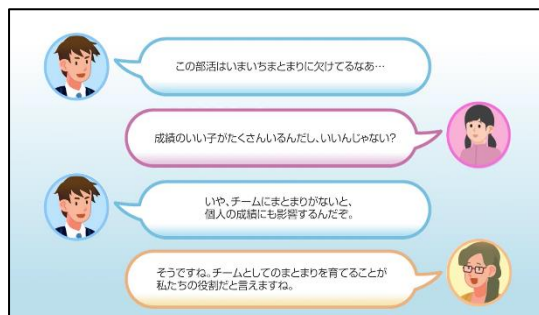


コーピング

ストレッサーやストレス反応を受けることで心身が反応して起こす、何らかの行動



「部活動という集団」



スポーツチームで発達しやすい集団規範

1. 時間を守る
2. フィールドでの集中を維持する
3. 服装を守る
4. チームメイトを支援する
5. トレーニングに一生懸命臨む

集団規範

一つの集団に所属するメンバーが共有する
ルールや判断基準のこと



集団がまとまる(チームに魅力を感じる)ポイント

1. 目標達成に向けたリーダーシップが効果的に発揮されている
2. メンバーが自分の役割を理解し、意欲的に取り組んでいる
3. コミュニケーションが活発で協力しあっている
4. 集団の目標達成のためにメンバーが努力している
5. 効果的なミーティングが行われている
6. 集団としての弱点の把握と低減のための努力が行われている

(2) e ラーニングシステムの概要

本事業で使用した株式会社プロシーズの e-ラーニングシステム Leaning Ware(ラーニングウェア)は、e ラーニングコンテンツの配信やその学習進捗管理だけでなく、集合研修出欠確認やレポート提出など、研修全般の管理が行え、学習者同士のコミュニケーションを促進する SNS 機能が搭載された学習管理システムである。

■ Learning Ware の主な機能一覧

1) 学習機能

分類	説明
登録	(ア) ログオフ時の連絡先の確保を目的にユーザーは登録が必要となる。 登録手順は以下の通り： ① メールアドレスの仮登録 ② ID、パスワード、本登録用 URL を記載したメールを受信 ③ 上記 URL にアクセスすることで本登録完了 (イ) 属性調査アンケート機能を搭載する。質問項目は 5 問程度を想定。 質問事項は分科会で作成する
講義	・ 掲載された講義の閲覧が可能（要無料登録） ・ 講義全体については、いずれの分野・ユニットからでも閲覧が可能
アンケート	管理者が登録したアンケートに回答可能

2) 成績管理機能

機能	説明
講座進捗	・ 講座の進捗状況をユーザー別に把握
テスト	・ ユーザーが受験したテストの詳細を管理 ・ 受検日時及びテスト結果の確認が可能 ※テストについては次年度以降に作成する見込み
レポート	・ 提出レポートの評価及び進捗を管理しコメントの入力も可能
ログイン 状況	・ ログイン状況を管理（ログインした時間や受講環境の確認が可能）する機能の装備

3) 管理者からの情報発信・ユーザー管理機能

機能	説明
メール	・ 学習者がログオフ時に閲覧できるよう、ユーザーにメールを送信することができる ・ ユーザー別送信・一括送信の選択可能。発信のタイミングも設定可能とする
アナウンス	・ ログイン時のトップ画面に表示されるアナウンス文を登録できる
アンケート	・ 回答方法は単数回答、複数選択、記述式等の設定が可能 ・ アンケートの回答結果を定期的にグラフ化 ・ 実証講座アンケートの場合、質問事項等は分科会で検討・作成
グループ 管理	・ ユーザーをグループ分けし、グループごとに管理者を設定できる

■Learning Ware 動作環境

- ・ OS
 - ▼パソコン：Windows Vista、7、8、8.1、10、Mac OS X
 - ▼タブレット、スマートフォン：iOS8 以上、Android4.4 以上
- ・ ブラウザ
 - ▼パソコン：Microsoft Internet Explorer9/10/11、Firefox(39.0)、Google Chrome(43.0)
 - ▼タブレット、スマートフォン：
 - Safari(iOS のみ)
 - Android 標準ブラウザ(Android4.4 のみ)
 - モバイル Chrome(Android5 のみ)

(3) eラーニング学習の流れ

■e-ラーニング受講手順

1) 配布された ID とパスワードで以下の URL よりログインする

<https://www.learningware.jp/bukatsu/ps/Default.aspx>

ログイン画面

ID、パスワードを入力してください。

ブカリゼミ
ELITE COACH ACADEMY

ログインID : sanko0001
パスワード : *****

ログイン

パスワードを忘れてしまった方は[こちら](#)

～運営事務局からのお知らせ～
▼ログインでお困りの場合：
・ログインIDがわからない方は、上部の「こちら」のリンクを押して、ログインIDとメールアドレスを入力してパスワードをお確かめください。
・ログインIDがわからない方は、[管理者]欄にログインIDがわからない旨をメールでご質問ください。

powered by Pro*Seeds

トップページ画面

ブカリゼミ
ELITE COACH ACADEMY

コンテンツメニュー
▼トップページ

プロフィール
ログインID : sanko0001
名前 : sanko 0001
[プロフィールを変更する](#)

アナウンス
sanko 0001さん、こんにちは。

お知らせ
新着のお知らせはありません。
[全部を見る](#)

カレンダー
1月 2020年2月 3月
日 月 火 水 木 金 土
2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28 29
今日 ログイン
02月のログイン回数: 3回
Total: 132回

講座一覧
11. 部活動位置とコーチング責任
進捗:
5. プレイヤー (児童・生徒) の課

講座一覧画面

ブカリゼミ
ELITE COACH ACADEMY

コンテンツメニュー
▼講座一覧
リスト受動履歴

講座カテゴリ
2019年度 (11)
2019年度 (8)

受講中の講座
全19件 1/1 <<前の20件 [1] 次の20件>> 学習進捗: すべて表示 並び順: 受講終了日の早い順で表示

1. 学校の組織的理解
学習進捗: 66%
学習回数: 33回
前回の学習: 1-1 学校の組織における組織体制 (2019/12/08 17:49:38)
受講期間: 2019年01月01日～

2. スポーツの文化的理解
学習進捗: 25%
学習回数: 23回
前回の学習: 2-1 近代スポーツの誕生と発展 (スポーツの文明化) (2019/10/31 10:15:30)
受講期間: 2019年01月01日～

3. 部活動の位置付け
学習進捗: 0%
学習回数: 0回
前回の学習: -
受講期間: -

受講するボタンを押して
教材を表示する

11. 部活動指導とコーチング原理

5. プレイヤー（児童・生徒）の理解

10. 部活動の運営Ⅴ（事故対応と再発防止）

【公開準備中】15. トレーニング環境

4. 部活動指導員の指導の位置

6. 部活動の運営Ⅰ（管理）

7. 部活動の運営Ⅱ（指導）

9. 部活動の運営Ⅳ（安全管理体制の構築）

8. 部活動の運営Ⅲ（安全管理と法的責任）

1. 学校の組織的理解

2. スポーツの文化的理解

3. 部活動の位置付け

【公開準備中】12. 部活動指導とハウスメント

【公開準備中】13. 部活動指導とコーチングテクニック

【公開準備中】14. 部活動指導とメンタルマネジメント

【公開準備中】16. ジュニア層における身体構成の基礎知識

【公開準備中】17. 救急・救急処置（応急手当）

【公開準備中】18. 二次救命処置（BLS）

【公開準備中】19. けがに対する手当

【公開準備中】14. 部活動指導とメンタルマネジメント

学習進捗0%

学習回数0回

前回の学習未受講（未受講）

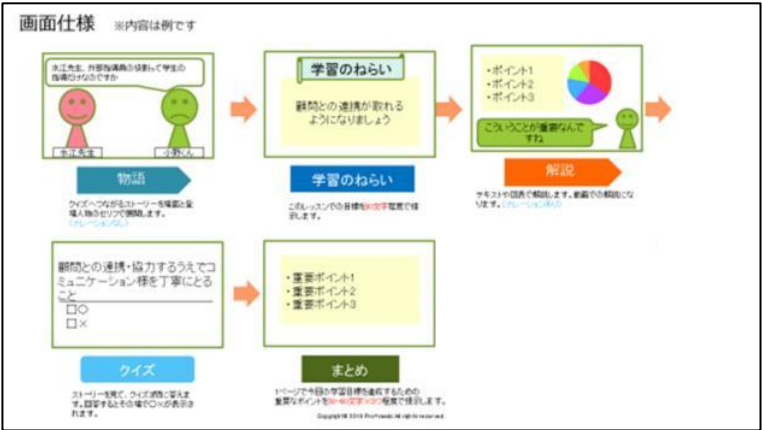
受講開始2019年01月01日～

レッスン詳細

タイトル、内容等で検索でさし検索クリア

▶ 受講する	14-1 モチベーションとは	
▶ 受講する	14-2 モチベーションを高める方法①原因理解理論	
▶ 受講する	14-3 モチベーションを高める方法②目標設定理論	
▶ 受講する	14-4 モチベーションを高める方法③ほめ方・しかり方	
▶ 受講する	14-5 メンタルマネジメントと競技不安	
▶ 受講する	14-6 競技不安を和らげる方法①メンタルトレーニング	
▶ 受講する	14-7 競技不安を和らげる方法②森田療法の実用	
▶ 受講する	14-8 競技不安を和らげる方法③自律訓練法と筋弛緩法の活用	

学習の流れ



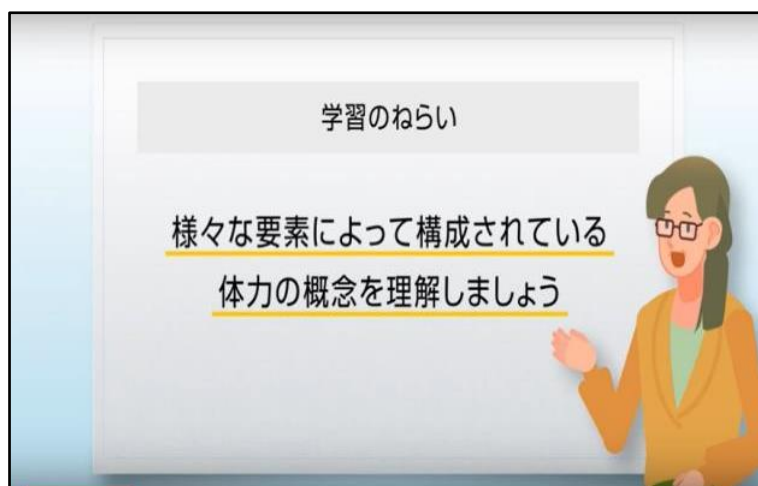
シーンを想定させる会話で受講がスタートする

走ってもすぐに息が切れちゃう…

それは体力がないからだろう。体力をつけるトレーニングをしないと。

そうですね、でも体力には行動体力と防衛体力があります。それを理解した上でトレーニングメニューを検討したほうがいいですよ。

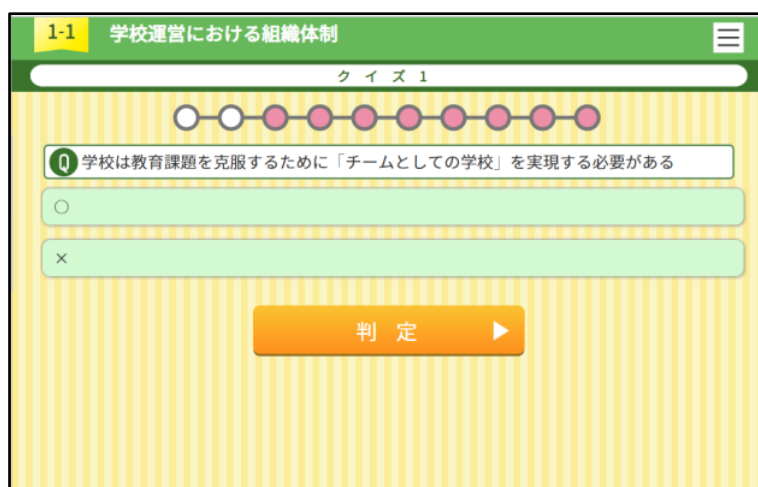
物語に紐付いた学習のねらいを掲出し、学習する内容を明確にする



解説で専門知識に関する学びを深める



クイズに回答し、知識の定着を図る



まとめ
《 体力とは①概念》

- 行動体力とはスポーツ活動などにおける作業能力や活動能力である
- 防衛体力とは様々なストレスに対する抵抗力や免疫、体温調節などの生存能力である
- スポーツに直接的に関与するのは行動体力であるが、防衛体力は行動体力の根底を支えている

お疲れ様でした



II. 分科会②【普及】

1.1 分科会② 概要

分科会②では 2020 年度に開発した e ラーニング教材の実証講座実施に向け、法人内部関係者や関連企業・団体への手配や受講後アンケートの質問項目策定、実証講座実施、アンケートの分析項目の策定及び分析を行った。受講対象者は専門的な観点からの意見集約を主な狙いとして現役の運動指導者及び部活動現場での指導経験者、また将来的な指導者キャリアを目指し専門的な領域を学んでいるスポーツ系専門学校生を中心に設定した。

上記と並行し、実証講座の際に受講者に回答いただく受講後アンケートの質問内容を検討した。学習内容が部活動指導員としてのキャリア形成につながるイメージを持てるかを中心に問う設問とした。

1.2 実証

■受講者手配

受講に際しては、スポーツ指導者を目指す学校法人三幸学園の全国リゾート＆スポーツ専門学校の学生及び教職員を中心に実証を行った。全国リゾート＆スポーツ専門学校に受講依頼の章割り当てを行い、通常授業内において時間を確保し一斉の受講とした。教職員に関しては現場経験のある人材、また運営しているスポーツ幼稚園での指導者を対象に実施した。

(1) 実証

■実証概要

目 的：開発した教材の有効性検証（教材仕様含む）

時 期：2021 年 1 月 15 日～2021 年 2 月 15 日

対 象：①学校法人三幸学園リゾート＆スポーツ専門学校在校生・教職員（全国 10 校）

②各種スポーツ指導者（アメリカンフットボールトレーナー・幼児体育指導員・フィットネスインストラクター・野球少年団指導者・バスケットボールクラブ指導者・高校サッカー指導者・バレーボールクラブ指導者など）

対象講座：2020 年度作成ユニット

回答数：790 名

■実証アンケート内容（設問項目）

今年度の実証に設定した項目の通りである。

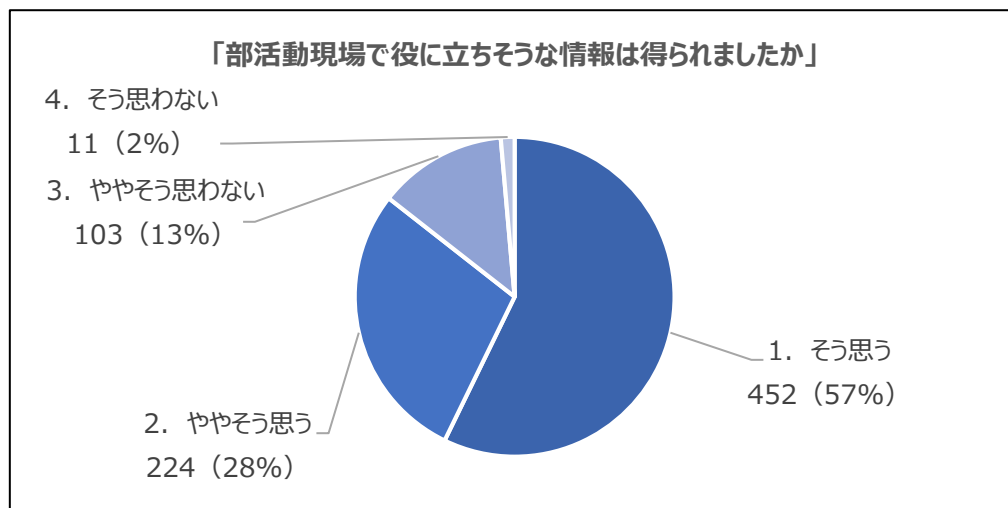
- ① これまでの運動指導歴について教えてください
自由記述
- ② 部活動現場で役に立ちそうな情報が得られましたか
選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない
- ③ 上記設問において「そう思う」「ややそう思う」を選択された方にお聞きします
具体的にどのような部分が役に立つと感じましたか
自由記述
- ④ 1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか
選択肢：適切・多い・やや多い・やや少ない・少ない
- ⑤ 上記設問において「多い」もしくは「少ない」を選択された方にお聞きします
具体的にはどのくらいの情報量が適切だと感じますか
自由記述
- ⑥ 得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか
選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない
- ⑦ 部活動指導員としての素地が得られる実感はありましたか
選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない
- ⑧ プログラム内容はタイトルに対して適切なものでしたか
選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない
- ⑨ さらに学習してみようという意欲は湧きましたか
選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない
- ⑩ コンテンツ内容は随時更新予定です 今後も利用したいですか
選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない
- ⑪ 教材において不足している内容、他に得ることができたらと思う情報はありますか
自由記述
- ⑫ 今後どのような教材があれば良いと思いますか 具体的に教えてください
自由記述
- ⑬ プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ
(わかり難いと感じたところなど自由に記述してください)
自由記述

■学習プログラム評価

- ① これまでの運動指導歴について教えてください（抜粋）
 - ・ 中学バスケットボール
 - ・ 高校生バスケットボール
 - ・ 小学生サッカースクール
 - ・ フィットネスインストラクター

- ・パーソナルトレーナー
- ・大学ラグロス
- ・地域野球少年団
- ・地域サッカークラブ
- ・ラグビートップリーグトレーナー

② 「部活動現場で役に立ちそうな情報は得られましたか」

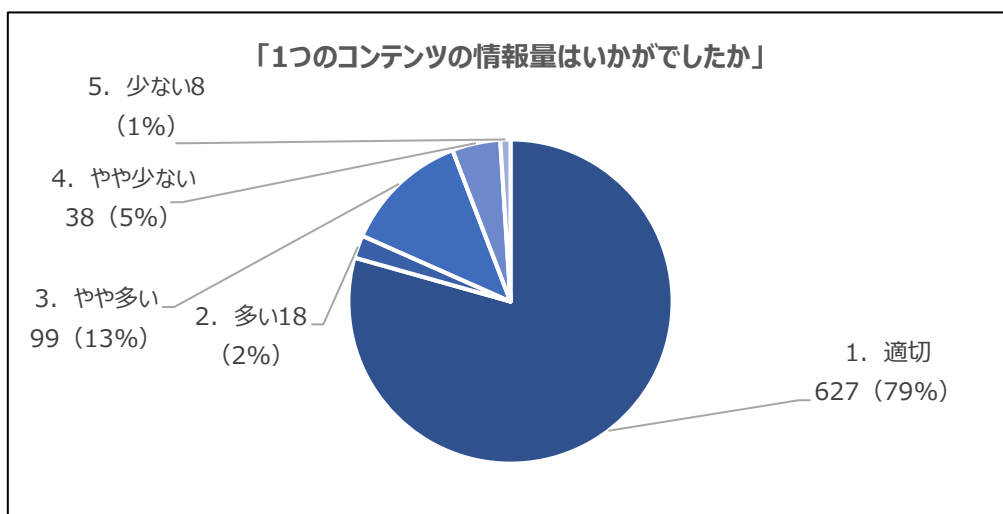


③ 「上記設問において「そう思う」「ややそう思う」を選択された方にお聞きします

具体的にどのような部分が役に立つと感じましたか」（抜粋）

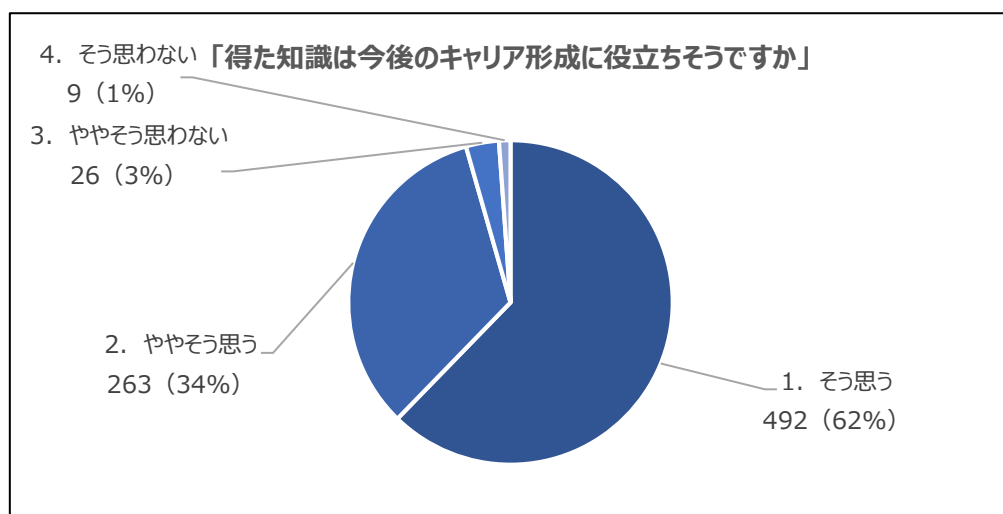
- ・運動ができない＝運動神経が悪いという固定概念があったが、そうではないということがわかった。
- ・指導歴が長くなるほど、自己理解・自身の振り返りの時間が短くなると感じたため、改めて指導者は基礎基本を適切な頻度で振り返るべきだと感じた。
- ・部活動に関わる指導者は、長時間労働が当たり前といった、昔ながらの考えや捉え方が深く根付いてしまっている為、凝り固まった風土を見つめなおすコンテンツであると感じた。
- ・部活動において質より量という考え方が根強くあるが、そうではなく普段の生活も大事にしていくというバランスのとれた考え方が大切だと分かった。
- ・競技力向上に執着するのではなく、生きる力を育むという部分に強く共感した。
- ・個に合わせたスモールステップが大事であり、個を伸ばす手法は身近にあるということを感じた。

④ 「1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか」

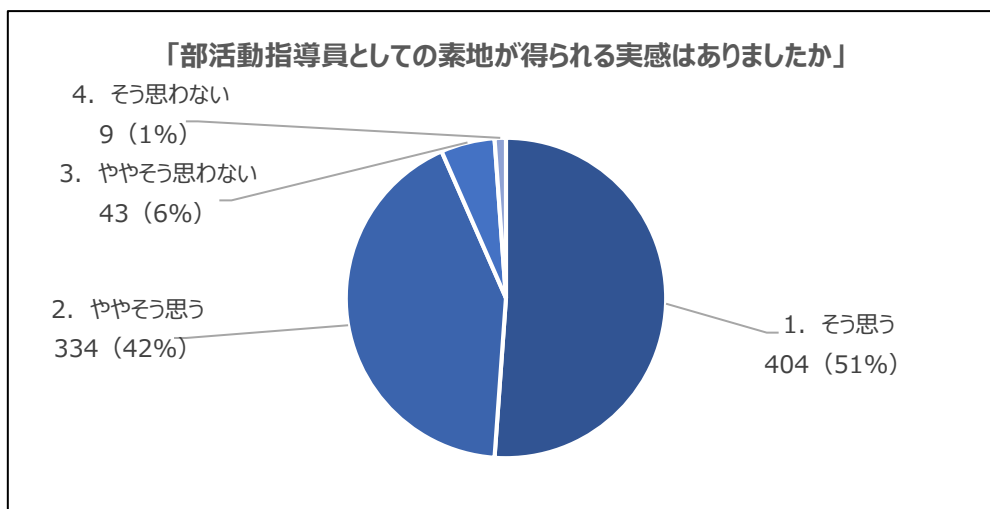


- ⑤ 「上記設問において「多い」もしくは「少ない」を選択された方にお聞きします
具体的にはどのくらいの情報量が適切だと感じますか（抜粋）」
- ・内容によっては10分～20分でも良いものもあると感じる。

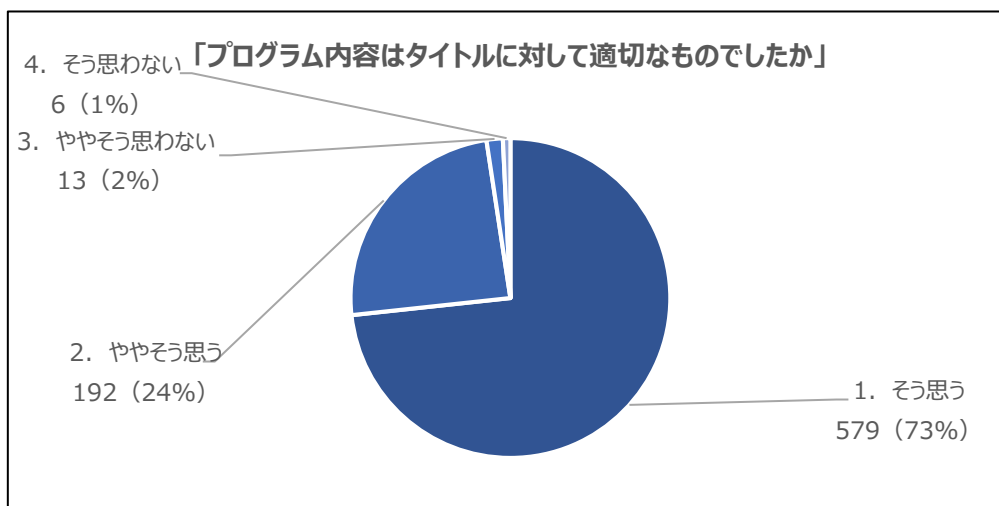
⑥ 「得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか」



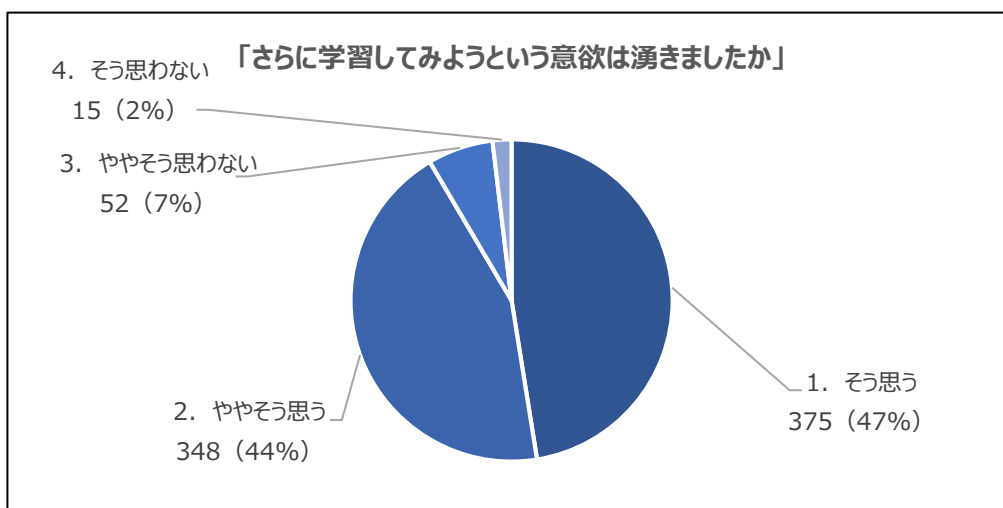
⑦ 「部活動指導員としての素地が得られる実感はありましたか」



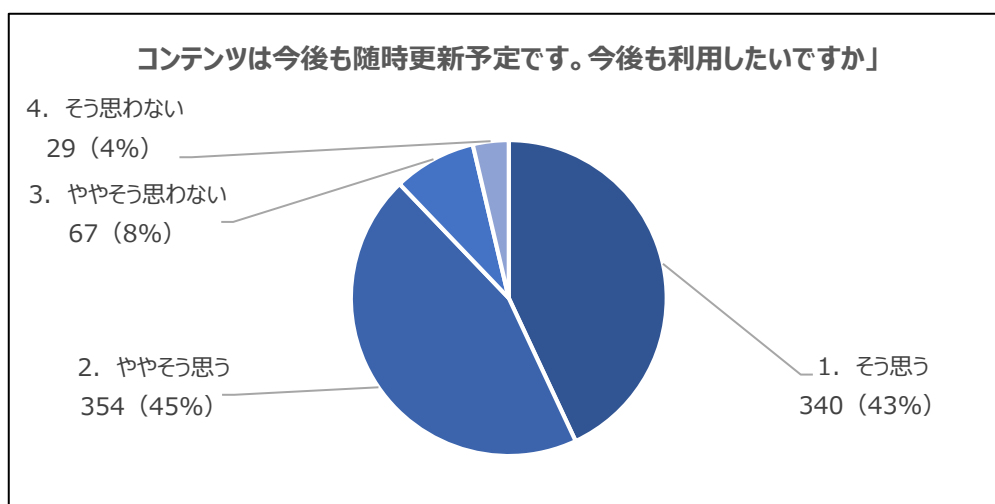
⑧ 「プログラム内容はタイトルに対して適切なものでしたか」



⑨ 「さらに学習してみようという意欲は湧きましたか」



⑩ 「コンテンツ内容は随時更新予定です 今後も利用したいですか」



⑪ 「教材において不足している内容、他に得ることが出来たらと思う情報はありますか」(抜粋)

- ・身体能力への対処は提示されているが、不器用なことで生じる問題に対する対人関係の対処法についてもあると良いのではないか。
- ・精神面を安定させるかわりから、更にその気持ちを高めていく方法についても学びたい。
- ・実際にエゴグラムを受け結果が見られるとより実感が深くなると感じた。

⑫ 「今後どのような内容の教材があればよいと思いますか」(抜粋)

- ・乳幼児期の特徴についても詳しく理解できる教材があると、保護者との連携をしながら子どもたちへの早期対応ができるのではないか。
- ・生徒たちが自分たちで考えて、改善できるチームにしていく具体的な指針があると人間教育という点でメリットが大きいと考える。
- ・運動に興味が無い子達に対して興味を持ってもらうためのアプローチなども学びたい。
- ・多様なスポーツ観から派生して、レクリエーションなど軽い活動を主とする部活動の登場に触れて良いのではないか。

⑬ 「プログラム全般に関して良いところ・改善すべきところ(わかり難いと感じたところ)など自由に記述してください」(抜粋)

- ・プログラム一つ一つは、短くわかりやすくまとめてあり、見やすかった。
- ・対処法なども具体的に学ぶことができ、実践しやすいと感じた。
- ・イラスト+短文の説明の部分がわかり易く良かった。
- ・社会人はまとまって長時間勉強をすることが難しい人もいると思うため、学びやすい時間だと感じた。
- ・声に無駄な感情がなく、明瞭に話していたため聴きやすかった。

■実証まとめ

過年度の実証を踏まえ改修を加えた点のねらい含め、教材の仕様に関する設問については適正である見通しが立っていた項目であり、約8割が情報量に対しての適切と回答があった。2020年度作成教材はより内容の充実に注力して取り組み、実証の結果としても仕様の設問と同様に肯定的な意見が目立った。

主に専門的な視点からの意見集約を実証した中で、「より深く学びたい」「さらに詳しく知りたい」といった学習意欲を感じられる回答もあり、本プログラムを軸とした対面講座やオンライン講座の併用においてのニーズが把握できる実証となった。

(2) 学習プログラムを活用した部活動指導員養成講習イメージの検討

■概要

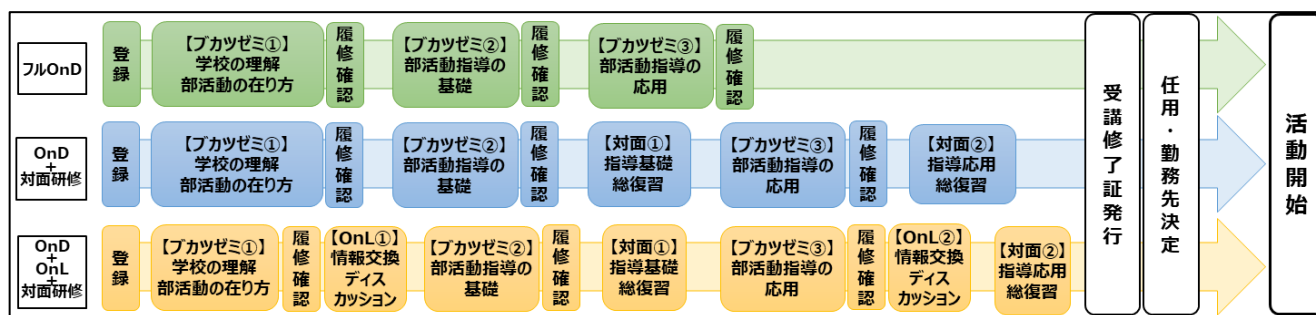
学習プログラムを活用した、実際の部活動指導員養成講習・任用前研修での活用パターンについて検討を行った。

■任用前研修としての活用パターン案

※OnD:オンデマンド型 OnL:オンライン型

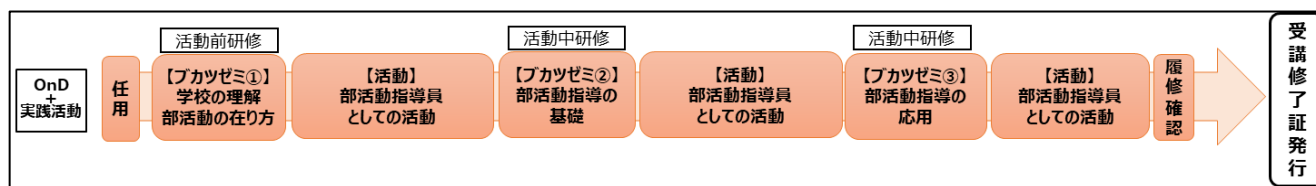
任用に際しての事前研修の位置づけで学習プログラム（ブカツゼミ）を活用するパターン

基礎基本をプログラム内にて学習し、発展的な指導内容や現場で多く想定される個別事例への対処法などについてはオンラインでの講座や、対面での講座で補完し、より実践力を身につけた部活動指導員の養成を目指し、リカレント教育機会を促進していく。



■活動期におけるリフレッシュ研修としての活用

任用後の継続したりリフレッシュ研修の位置づけでプログラムを活用し、定期的な知識のブラッシュアップを目指したりリカレント教育機会を促進していく。任用継続に向けたリフレッシュ研修としての活用も想定をしている。



■プログラム活用におけるポイント

1) 管理者設定における履修内容の選定・履修確認（管理者アカウント機能）

- ・登録受講者の履修状況確認が可能
- ・受講割り当て科目の選定など自治体のニーズに即したカリキュラム調節が可能

2) e ラーニング学習カリキュラム受講証明（修了証発行）のカスタマイズ

- ・発行元（管理者）での発行名称

（例）

〇〇市教育委員会公認部活動指導員

〇〇県〇〇協会公認部活動指導員

3) 対面研修・講習との組み合わせによる e ラーニング学習の補強

- ・現役トレーナーや運動指導専門家による実地研修
ex) 部活動に使えるテーピングの基本、中学校部活に多い傷害予防とウォーミングアップなど

総括および将来の展望

■総括及び将来の展望

1) 本事業の取り組み総括

分科会①「開発」においてはイントロダクションを含む128ユニットの教材開発となった。2018年度作成教材は、教育現場で働く上で必要な資質の醸成を目指し、基礎的な学習内容を多く盛り込んだ。2019年度作成教材は、前提として基礎を学んだ上での学習をイメージし、身体構造にかかわる内容や様々な背景を持った個への対応方法、またハラスメントの考え方など実践的な学習を盛り込んだ。2020年度教材は部活動という集団におけるマネジメント手法、個別での対応が必要となる事例への学び、指導者自身の環境を整える観点での教材作成となった。

分科会②「普及」においては2020年度作成教材の実証を790名対象に実施した。教材の有効性に関する設問を中心に意見集約を実施した。肯定的な意見が多く集まった中で、更に発展的な内容への学習意欲や、現場で必要とされる対応パターンをより詳細に学びたい声も多くあったことから、本プログラムを中心に据えた対面講座やオンラインでの同時双方向型授業としての活用パターン検討に至った。

本事業における3か年のeラーニング学習プログラムについて以下に記載する。

尚、各プログラムの色分けについては以下の通りの分類を表す。

教育	指導法	安全管理	マネジメント
----	-----	------	--------

【2018年度作成教材】

1. 「学校の組織的理解」(担当：藤後 悦子)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
学校運営における組織体制	5	チームとしての学校の在り方を学びましょう。	学校は、教育課題を克服するために「チームとしての学校」意識しています。 教員の指導体制は、職階と校務分掌によって構成されています。 教員以外の専門スタッフの参画が望まれています。
組織における校務とその概要	5	学校組織の体系と主要な校務の概要を理解しましょう。	学校は、校務分掌の役割分担を明確に決めて運営されています。 2つの大きな柱として、学習指導と生徒指導があります。 部活動の統括は、生徒指導や特別活動の教員が担当しています。

2. 「スポーツの文化的理解」(担当：中西 純司)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
近代スポーツの誕生と発展（スポーツの文明化）	5	19世紀の近代英国において誕生した「近代スポーツ」とは何かを学びましょう。	暴力的なモブ・フットボールを、一転して現在の様な禁欲的かつ非暴力的なサッカーに変えたのは19世紀の近代英国の「パブリックスクール」でした。 サッカーという近代スポーツは、ルールを定めて身体への過剰なエネルギーを発露させる暴力的回路を排除すること（＝文明化）で誕生しました。 教育的・禁欲的・倫理的・非暴力的・組織的・都市的・技術的（知的）性格をもった近代スポーツは、今日のスポーツの原型と言えます。
文化としてのスポーツの価値	5	スポーツの文化性とスポーツの価値について理解を深めましょう。	人間は、自分たちの生活を維持し、より豊かにしていくために、スポーツ文化（観念文化、行動文化、物質文化）を創造し発展させてきました。 スポーツは、自発的な運動の楽しみ（活動・競争・達成・克服・模倣などのプレイ欲求の充足）を基調とする人類共通の「文化」です。 人間がスポーツとかわかることは、「文化的な営み」であり、個人や社会全体にスポーツの多様な価値や便益を創出することができます。
人間とスポーツのかかわり（豊かなスポーツ生活）	5	人間とスポーツの「3つ」のかかわり方と豊かなスポーツ生活について学習しましょう。	人間とスポーツのかかわり方には、「スポーツを行う」「スポーツをみる」「スポーツを支える・創る」という3つの形態があります。 豊かなスポーツ生活とは、スポーツとの多様なかわり方を生涯生活の中にバランスよく形成し、スポーツの価値や便益を十分に享受している状態です。 生徒とスポーツの3つのかかわりを創り出し、生徒の豊かなスポーツ生活と学校生活の実現化を図ることこそ、部活動経営の使命と責務です。

3.「部活動の位置づけ」(担当：藤後 悦子)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
学校の場に関連する法規	5	教育現場に関係する法規について学びましょう。	学校の場に関連する法規は、日本国憲法、教育基本法、学校教育基本法、学校教育法施行令・施行規則、学習指導要領という順番があります。 こどもの権利条約は日本国憲法と教育基本法の間に位置する。 部活動は学校教育法での記載はなく、学習指導要領ではじめて説明される。 日本ユニセフ協会は、「子どもの権利とスポーツの原則」として10つの指針を提示した。 2017年学校教育法施行規則の一部を改正し、外部の人材が単独で部活動を指導・引率できる「部活動指導員」を制度化した。
教育制度と部活動	5	教育制度の中での部活動の位置づけを理解しましょう。	我が国の教育制度は、学校教育と社会教育・生涯学習によって成り立っており、学校教育については学習指導要領に定められている。 部活動は学習指導要領の中で述べられており、教育課程外の活動と位置付けられている。 部活動は、「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるように留意すること」と述べられている。
課外活動（部活動）の位置づけ	5	課外活動における部活動の位置づけについて学びましょう。	学校教育は、教育課程を編成し教育を行うが、教育課程外の活動（課外活動）も内包している。 課外活動には、部活動や長期休業中に行われる補助的な学習、特別授業、文化・スポーツ的な行事などが含まれる。 部活動は「生徒の自主的、自発的な参加」により行われる。
部活動の教育的意義（or生涯学習を培う部活動の在り方）	5	部活動の教育的意義を確認しましょう。	部活動は、豊かな人間性や社会性の育成を行う。 生徒の生活の場を地域社会に広げ、幅広い視野に立つ機会を提供する。 部活動は、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めることができる。 部活動を通して、生涯スポーツに親しむための得意なスポーツの基礎作りを行う。
部活動の社会的意義	5	部活動の社会的意義を学びましょう。	部活動を通して異年齢や同年代の友達を作ることができる。 部活動は、放課後や週末の居場所になる。 部活動は、スポーツや芸術活動を通して、知識や経験を増やすことができる。親の経済的な地位によらず文化的経験を習得できる。
部活動を取り巻く社会的変遷	5	部活動を取り巻く社会的変遷を見てみましょう。	部活動の歴史は、1947年小・中学校において課程内活動の中の「自由研究」として部活動に類似するものが開始された。 「自由研究」から「特別教育活動」へと移行し、1968年からは中高では課程内「必修クラブ」、課外活動「選択クラブ（部活動）」の併存が行われた。 1989年から高校では部活代替制度が開始され、全生徒が部活動へ参加することになった。1998年から中高では、課程内のクラブ活動は廃止され課外活動の「部活動」のみの選択となった。近年、部活動の役割や目的の多様化している。
部活動の現状	5	部活動の現状について理解しましょう。	中学・高校のほぼ全校において運動部が設けられている。現在中学で約65%、高校で約42%の生徒が何らかの部活動に所属している。 中学校部活動の活動は平日平均2時間程度、一週間に休養日を設けていない割合は約22.4%。 部活動における外部人材活用状況は約74%である。そのうち、中学校の運動部の数に占める外部指導者の割合は約25%である。 部活動の顧問の背景は、担当教科が保健体育でなく、かつ担当部活動の競技経験がない教員の割合が中学校で約46%。
部活動の課題①	5	部活動の課題について学びましょう。	顧問の指導上の悩みとして、「校務が忙しくて思うように指導できない」「自分の専門的指導力の不足」「施設や設備等の不足」が上位に挙がっている。 部内の人間関係は問題が発生しやすい。不登校経験者が不登校の原因として第5位に「部活動の友人・先輩との関係」をあげている。 部活動の指導課題としては、勝利至上主義に偏った指導、バランスのとれた生活への支障やスポーツ障害を引き起こすほどの過度な練習量、体罰やセクハラにつながる誤った指導が挙げられる。
部活動の課題②	5	部活動の運営上の課題について学びましょう。	運動部活動への参加生徒の減少で部活動が成り立たない。 校長の学校経営上の問題として、顧問の人材不足、顧問のワークライフバランスの難しさが挙げられる。

4.「部活動指導員の職責と自覚」(担当：藤後 悦子)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
部活動指導員の役割	5	部活動指導員が果たすべき役割について学びましょう。	学校の教育計画に基づき、生徒の自主的、自発的な参加により行われるスポーツ、文化、科学等に関する教育活動である部活動において、校長の監督を受け、技術的な指導に従事すること 実技指導、安全・生涯予防に関する知識・技能の指導、学校外での活動の引率、用具・施設の管理、部活動の管理運営、保護者への連絡、生徒指導に関わる対応など 勝利至上主義に陥らないように気を付ける（導入に当たり危惧されている）
部活動指導員の倫理	5	部活動指導員として必要な倫理について理解を深めましょう。	信用失墜行為（勤務時間のみならず常に守らなければならない義務）の禁止 信用失墜行為とは、①自分の職の信用を傷つけないこと ②職全体の不名誉となるような行為はしないこと 守秘義務（職務上知ることのできた秘密を守る義務。公務員および医師・弁護士などが負う。）について
指導者としてのマナーと人格	5	学校の教職員として意識すべきマナーを確認しましょう。	非常勤勤務であっても、生徒や保護者から見れば「先生」。 技術だけではなく、マナーや大人としての態度も伝えよう（生徒たちにとって規範となる大人でいよう）。 学校との連携の必要性 顧問・学校長への報告・連絡・相談を欠かさないこと
部活動指導員が起こしうる問題①「ハラスメント」	5	物理的なハラスメントに相当する事例の理解を深めましょう。	パワーハラスメントとは、「職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与え又は職場環境を悪化させる行為」である。 限度を超えた肉体的負荷、暴力的な行為（椅子を蹴る、靴を投げするなど含む）はやめよう 勝利至上主義が原因の一つ：ハラスメントにより試合成績が上がるという経験から習慣化しやすい
部活動指導員が起こしうる問題②「ひいき」	5	精神的なハラスメントに相当する事例の理解を深めましょう。	言葉や態度による脅し、威圧・威嚇的発言や行為、過度な叱責、嫌がらせ等（パワーハラスメントと判断される）はやめよう ひいき（特定の生徒に対する優遇）は避ける
部活動指導員が起こしうる問題③「発達段階の理解不足」	5	発達段階の理解不足に相当する事例の理解を深めましょう。	ミニバス時代から負荷をかけすぎたため、中高生で膝を壊した事例 成長中の身体での過度の練習はスポーツ障害・外傷のリスクを高める 適切な活動量：週5日以内、一日2時間以内（平日）・3時間以内（休日）

5.「プレイヤー（児童・生徒）の理解」(担当：藤後 悦子)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
児童・生徒の身体的発達	5	出生から成熟に達するまでの身体的発達について学びましょう。	スキヤモンは「神経型」「一般型」「生殖型」「リンパ型」の4つの異なる発達曲線があることを示しています。 「一般型」は身長などの全身的形態の発達を表しています。「神経型」の発達は早く、7歳頃までに成人のおよそ95%に達します。 筋力は思春期発育期に急激に増加し、素早い動きや瞬発力を必要とする運動の能力が向上します。
児童・生徒の精神的発達（児童期の発達）	5	児童期（6～12歳程度）の心の発達課題について理解しましょう。	「できた！」という体験を積み重ねることにより、子どもは有能感を獲得し、さまざまなことにチャレンジする力を養うことができます。 児童期には仲間との比較により、自分の能力に気づくようになります。「劣等感」を持たせない関わりが大事です。
児童・生徒の精神的発達（思春期の発達）	5	思春期の心の発達課題と第2次性徴について学びましょう。	性ホルモンの影響により、女子は9,10歳頃から、男子は11,12歳頃から身体の変化が見られます（第2次性徴）。 身体の変化に伴って、親や教師等大人への依存が減少し、精神的自立を模索する中で反抗期も出現します。 仲間関係はますます重要になり、仲間との関わりの中で自己が形成されていきます。
学校生活の理解（教師との関係）	5	生徒に与える指導者の影響について学びましょう。	ピグマリオン効果とは、教師から生徒への期待によって、子どもの能力がのびる効果のことです。 指導者の先入観によって、知らず知らずのうちに特定の子どもへの期待（あるいはその逆）をもって接していることがあることに注意が必要です。
学校生活の理解（仲間との関係）	5	児童・思春期の仲間関係の変化と特徴について学びましょう。	ギャンググループは小学校中学年以降に見られる同性同年齢の仲間関係です。この関係を通して役割分担や集団内のルールなどを学びます。 チャムグループは中学生頃に見られる排他性の強い仲間関係で、友だちへの同調行動への圧力が強くなります。 ピアグループは高校生頃に見られる仲間関係で、それ以前に比べて自分と他者の違いを認めあうことができるようになります。
家庭生活の理解	5	児童・思春期の親子関係の変化と特徴について学びましょう。	思春期は「親からの自立」の始まる時期です。 「反抗期」は自立に向かうために必要なこと。親や教師等大人に対して、自らを主張することで自分を見つめ直していきます。 子どもが学校での出来事を保護者に話すことも少なくなるので、保護者の心配が強くなることも。必要に応じて、保護者への連絡も行いましょう。

6.「部活動の運営Ⅰ（管理）」（担当：東京リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
活動計画の作成	5	活動計画の作成について学びましょう（年間、期間、1日）	学校と連携し、適切な目標設定をする 心身の健康管理のバランスを考え、練習時間や休養日を適切に設定する 各種大会スケジュールに合わせ、指導計画を教諭等と連携して作成する
教諭等との連携	5	部活動を担当する教諭等との連携について学びましょう	当該部活動を担当する教諭等に含ませて学級担任や養護教諭等と情報を共有し指導に活かす 部活動費の会計について、しくみを理解したうえで適切に処理する 顧問会議の出席や部員名簿などの作成を行う
関係団体との連携	5	関係団体との連携について学びましょう	保護者への通信の作成や保護者会の開催・運営を行う（生徒の実態・会計管理など） 体育関係団体（中学校、高等学校体育連盟）や競技団体との連絡調整を図り、大会運営に携わる 地域関係団体と連携し、より良い環境設定を行う
事務手続き	5	各種事務手続きについて理解を深めましょう	広報活動を適正に行える（個人情報の管理） 大会や対外試合の引率関係の事務手続きが行える 合宿開催に関する企画運営・事務手続きが行える

7.「部活動の運営Ⅱ（指導）」（担当：東京リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
生徒の活動観察と実技指導	5	生徒の活動観察や実技指導について学びましょう	学校の教育目標に沿った具体的な目標が立てられる 生徒の実態に合わせた指導方法を提供できる（基礎・基本・主体的な練習） 協力して部を運営するなどの社会的態度を育成する指導ができる
目標を固定しない柔軟な指導	5	目標を固定せず、部や個人の状況を評価し、柔軟な対応ができる	個や学年に応じた対応や練習メニューが提供できる コミュニケーションを十分に図り、生徒が目標達成に向けて主体的かつ意欲的に取り組むよう指導する 部活動と学業のバランス、生徒の心身の状況の把握に努め、必要に応じて目標や計画を修正する

8.「部活動の運営Ⅲ（安全管理と法的責任）」（担当：東京リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
教育現場における安全管理の法的責任	5	教育現場における安全管理の法的責任について学びましょう	事故によって生じた損害の補填を目的とした責任があります（民事上の責任） 法を犯した者に対して刑罰という制裁を加え、社会を犯罪から予防、防衛するための責任があります（刑事上の責任） 公務員関係の内部秩序維持のため公務員の職務上の義務違反に対して任命権者がその職員に対して問う責任があります（行政上の責任）
教育現場における安全管理の義務	5	教育現場における安全管理の義務について学びましょう	計画的かつ定期的に安全点検を実施し、活動を保護する。（安全保護義務） 活動内容決定段階において適切な計画が立案されていたのか（危険回避義務・危険予見義務） 十分に安全に配慮された指導がなされていたのか、有事の際に適切な対応が取られていたのか（指導監督義務）
部活動における負傷・疾病の実態	5	部活動における負傷・疾病の実態について学びましょう	生徒自身の行為（主体要因）が関係するケースが多い グラウンドの不整備や自然条件のチェックなど環境要因によるものも軽視できない W-UP・C-DOWNの時間を十分に確保する必要がある

9.「部活動の運営Ⅳ（安全管理体制の構築）」（担当：東京リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
学校における体制整備（緊急事態発生時の体制）	5	学校における緊急時の体制整備について学びましょう	事故者の観察応急手当を施すとともに、医療機関及び保護者への連絡を迅速に行い、教諭等に報告する 普段から指導者不在時の対応方法については指導をしておく 全教職員が共通で理解をし、組織的な対応が行えることが重要
施設・設備・用具の安全点検と安全管理	5	施設・設備・用具の安全点検と安全管理について学びましょう	過去の事例や関係者からの情報収集より、危険箇所を抽出しておく 複数の目により児童の行動予測を含め危険箇所を分析する 危険箇所の抽出と分析を通して物理的な対策と人による対策の両面から整備する
生徒の健康管理	5	生徒の健康管理について重要な観点を学びましょう	家庭（保護者）・学級担任・養護教諭などの情報交換と連携を密にする 健康診断の結果を把握し、個々の健康管理と安全の確保に努める 健康管理に関わる情報は個人情報にあたる為、取り扱いには十分に注意する

10.「部活動の運営Ⅴ（事後対応と再発防止）」（担当：東京リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
情報の整理	5	学校現場における情報の整理について学びましょう	事故の発生状況や経過・緊急の実施した措置などを記録しておくことが必要 迅速かつ確実に事実確認を行い、当該生徒の保護者へ対応に当たる 被害児童生徒以外の保護者にも状況に応じて説明を行う（徳測による誤った情報の蔓延を防ぐため）
報告・再発防止等	5	部活動における有事の際の報告・再発防止について学びましょう	重篤な事故について学校の設置者へ報告をする（死亡事故に関しては国に報告） 関係する教職員生徒に事実関係の確認と記録を行う 速やかに具体的な措置を講ずるとともに、実施状況について適時適切に点検・評価する

11.「部活動指導とコーチング原理」（担当：平岡 拓晃）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
スポーツのコーチングと人間形成	5	スポーツのコーチングにおける人間形成の重要性について学びましょう	スポーツのコーチングは、スポーツ技能の向上だけでなく、体力の向上や他者を尊重し共同する精神の醸成にも役立ちます スポーツのコーチングでは、スポーツを通して公正さと規律を尊ぶ態度や克己心の養成も重要な要素です スポーツのコーチングを通して育成された実践的な思考力や判断力は、豊かな生活の形成や社会生活の中でも役立つ能力です
スポーツにおけるコーチング	5	勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持ちましょう。	勝敗に関わる技術の向上だけでなく、生徒の「生きる力」を育成しましょう。 あらゆる場面において、生徒に公平に接しましょう。 生徒の個性を見極め、個々に応じた努力による達成感、充実感が感じられるコーチングを行うことを意識しましょう。
コーチングに必要な知識・技能	5	生徒の体調を把握、予測し、個々に即した指導を意識しましょう。	スポーツ医学・科学の観点から踏まえた指導が効果的であることを理解しましょう。 成長期の生徒達に即した「運動」「食事」「休養バランス」と「性差」を考慮しましょう。 「合理的」「効率的」「効果的」な活動となるように指導計画を立てましょう。
スポーツ指導の基本原則	5	生徒に主体性が芽生える指導について学びましょう。	生徒の自主性を尊重しましょう。「教える」という一方的な指導ではなく、「ともに考える」事を意識します。 生徒の気持ちに共感し、否定せずに受け入れるよう努めましょう。 生徒が自ら取り組み工夫し、個性が発揮できるような環境作りを心がけることで生徒達に自主性が芽生えます。
スポーツにおける暴力根絶に向けて	5	インテグリティのある指導について学びましょう。	あらゆるハラスメントを意識し、スポーツを楽しむ「権利」や「尊厳」を尊重しましょう。 暴力・暴言による指導は、スポーツの社会的価値を損なう行為であることを理解しましょう。 暴力・暴言は自身のコーチング力の未熟さを証明しています。

【2019 年度作成教材】

12.「部活動指導とハラスメント」（担当：大橋 恵）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
スポーツにおけるハラスメントの捉え方とその具体例	5	具体例からスポーツにおける「ハラスメント」とは何かについて確認しましょう。	加害者の意図は関係なく、被害者が苦痛を感じたら、「ハラスメント」と呼ばれる 物理的なもの（体罰）、精神的なもの（ひいきや偏倒）、不適切な練習の三つに分けられる 保護者やチームメイトによるハラスメントもある
部活動指導にみられるハラスメントの実態	5	部活動の指導においては、実際にどのようなハラスメントがあるのか、理解しましょう	特に運動部においてハラスメントや体罰が見られる 部活動におけるハラスメントの経験率と、種目や性別による違いを理解する ハラスメントを受けることが生徒にどのように影響するのか、その問題点を理解する
部活動指導でのハラスメント発生要因	5	部活動の指導においては、どのようなときにハラスメントが起こりやすいのでしょうか、その原因について理解を深めましょう（まとめに挙げた上二つが運動部に典型的であり、文化部では起こらないことがあるため、おそらく運動部において深刻である箇所で述べておきましょう）	勝利至上主義と気持ち主義（努力の偏重） 種目の特性（チームスポーツ） 指導者本人のストレスや生活満足度
ハラスメントに関連する一般的な法律	5	ハラスメントと一般的な法律との関連を確認しましょう	基本的人権に反する行為 刑法第204条「傷害罪」、第208条「暴行罪」、第222条「脅迫罪」、第223条「強要罪」 刑法第230条「名誉毀損」、第231条「侮辱」等
部活動でのハラスメントが生徒に与える影響	5	ハラスメントが部活動運営・指導に与える影響について、生徒の立場から理解を深めましょう	バーンアウト 対人不安、消極的態度 価値観の継承
部活動指導においてハラスメントを発生させないために	5	部活動指導におけるハラスメント防止策について考えましょう	自分の直観に自信を持ちましょう（情報的影響の説明） 「チーム学校」を意識して、部活の外のひとと話しましょう さまざまな価値観のひとと話しましょう

13.「部活動指導とコーチングテクニック」(担当：平岡 拓晃)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
コーチングの心構え	5	コーチングの心構えについて確認しましょう	常に適切な行動をとり、暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう 指導者自らの「人間力」を高めましょう プレイヤーのことを最優先に考え、自立したプレイヤーを育てましょう
技術指導における効果的指導法	5	技術指導における効果的指導法について学びましょう	映像による視覚的教材を利用しましょう。 場面に応じた比喩的表現、擬態語、リズムづくりによる言葉指示を活用しましょう。 場面に応じた筋感覚的指導(身体拘束法、反応強制法)を利用しましょう。
コーチに必要なコミュニケーション能力Ⅰ	5	コーチに必要なコミュニケーション能力Ⅰについて学びましょう	質問・質問をすることでプレイヤーは自問自答し、自己理解を深める事ができ自分自身で考えられるようになります。 傾聴・相手の発言に対し否定したり評価したりせず、中立的な視点を失わず、相手が何を考えているか共感的に聞き入れましょう 承認・相手の存在や発言をそのまま受け止め、表現しましょう
コーチに必要なコミュニケーション能力Ⅱ	5	コーチに必要なコミュニケーション能力Ⅱについて学びましょう	質問・傾聴・承認を行った後、プレイヤーに適切なフィードバックを行いましょう プレイヤーが好ましい行動をとったときは褒めましょう。運動技能の獲得と定着が促されます 発言力や問題解決能力を身に付ける為にチーム内でディスカッションする場を設けファシリテーションを活用しましょう 強化効率と生産性向上のために：過度の経験主義・手探りの強化の脱却
医・科学現場の知見の反映	5	医・科学現場の知見を反映させることの重要性について考えましょう	提案・誘導・納得型のコーチングへ：命令・強制型コーチングの脱却 性差・年齢差に応じたデータを元に効果的な強化方針の作成
中学期以降におけるコーチングⅠ	5	中学期以降におけるコーチングについて理解を深めましょう	スキモンの発育曲線を考慮し発育発達に合わせたコーチングが効果的であると理解しましょう。 身体的な発達が急激であり、動きを習得する際に理性的な理解をしようとする傾向が強くなる時期である。 技術や戦術に関する問題に注意を向けさせる指導が非常に有効である。
中学期以降におけるコーチングⅡ	5	中学期以降におけるコーチングについて理解を深めましょう	生徒は指導内容について理論的な説明を求められるようになる。 指導者からの指示と自己の持つ運動感覚について、自己確認ができるようになる。 指導者は「考えながら練習をする」という内容を常に言語にして表し、良い習慣づけを形成させることが重要である。
指導者のあるべき姿	5	指導者のあるべき姿について確認しましょう	コーチング環境を改善・充実するために社会に開かれたコーチングに努めましょう。 競技力と人間力を兼ね備えたプレイヤーを育成し、コーチの社会的信頼を高めましょう。 常に学び続けましょう(学ぶことをやめると、教えることをやめなければならない、ロジエ・ルメール)。

14.「部活動指導とメンタルマネジメント」(担当：藤後 悦子・井梅 由美子)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
モチベーションとは	5	生徒の行動の原動力となるモチベーションについて学びましょう。	モチベーションは動機づけとも呼ばれ、人が行動を起こすときの原動力である。 内発的動機づけとは、自分の興味や関心から引き出されるその行為自体が目的となる動機づけである。 外発的動機づけとは、報酬等外的な力により行動が引き出される動機づけである。
モチベーションを高める方法①原因帰属理論	5	モチベーションを高める方法(原因帰属理論)について学びましょう。	起こった出来事(結果)に対して「なぜそうなったのか」(原因)の考え方は人によって違う。 「原因の所在」は「内発的」「外的」の2つに、「(原因の)安定性」は「安定」「不安定」の2つに分類される。 もっともモチベーションが高まるのは、原因の所在が「内発的」で「不安定(その時によって変わる)」の時である。
モチベーションを高める方法②目標設定理論	5	モチベーションを高める方法(目標設定理論)について学びましょう。	目標設定理論とは、目標(ゴール)という要因に着目した理論である。 目標を明確かつ具体的に設定することにより、モチベーションが向上・持続する。 目標に対する適切なフィードバックを行うことにより、モチベーションが持続する。
モチベーションを高める方法③ほめ方・しかり方	5	モチベーションを高めるほめ方・しかり方について学びましょう。	最終目標までのステップを細かく設定して(スモールステップ)ほめる場面を増やす。 叱る(注意する)ときは、生徒の人格ではなく、行為を。 あなたメッセージではなく、わたしメッセージを使う。
メンタルマネジメントと競技不安	5	メンタルマネジメントと競技不安との関連 競技不安に関する症状と発生メカニズムについて理解しましょう。	競技にまつわる「あがり、緊張、不安」について理解しましょう。 特性不安と状態不安について理解しましょう。 競技不安の定義とメカニズムを理解しましょう。
競技不安を低める方法①メンタルトレーニング	5	メンタルトレーニングを取り入れてみましょう	メンタルトレーニングとは メンタルトレーニングの一般的な流れを学びましょう メンタルトレーニングで用いられる主な技法について学びましょう
競技不安を低める方法②森田療法の活用	5	森田療法を活用してみましょう。	森田療法を理解しましょう 森田療法が考える不安のメカニズムを理解しましょう 森田療法を活用した競技不安との付き合い方を理解しましょう
競技不安を低める方法③自律訓練法と筋弛緩法の活用	5	自律訓練法と筋弛緩法を活用してみましょう。	スポーツ選手のストレスマネジメントとリラクゼーションを学びましょう 自律訓練法を実践してみましょう 筋弛緩法を実践してみましょう

15. 「トレーニング基礎」(担当：西川 壘)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
体力とは①概念	5	様々な要素によって構成されている体力の概念を理解する	行動体力とはスポーツ活動などにおける作業能力や活動能力である 防衛体力とは様々なストレスに対する抵抗力や免疫、体温調節などの生存能力である スポーツに直接的に関与するのは行動体力であるが、防衛体力は行動体力の根底を支えている
体力とは②狭義の行動体力の種類と特性	5	体力トレーニングによって鍛えることができる行動体力について理解する	行動体力は形態と機能に分けることができ、体量や筋肉量＝形態、筋力や持久力など＝機能をトレーニングで鍛えることができる エネルギー系体力要素の相互関係 発育発達概念からジュニア期にはサイバネティクス系のトレーニングが重要である
体力とは③体力に含まれるスキルとは	5	スキルも体力の一部であることを理解する	スキルとは身体運動を上手に（巧みに）行うために必要な能力であり、サイバネティクス系の体力要素が該当する 身体の諸機能を調節することを運動制御（motor control）といい、スキルとは随意的運動制御能力といふこともできる スキルは4つの要素により構成され、脳・神経系の機能によって決定される
トレーニングの原理・原則	5	トレーニングの一般論となっている原理原則を理解する	経路から積み上げられたトレーニング方法だけでなく現段階で最適なトレーニングを選択する トレーニングの三原理（オーバーロード・特異性・可逆性） トレーニングの五原則（全面性・意識性・漸進性・個別性・反復性）
トレーニング処方の方考え方①	5	トレーニングを処方する上で重要な変数を理解する	種類・強度・量・配列・休憩時間・頻度・背景を考える 形態的分類 体力要素による分類
トレーニング処方の方考え方②	5	中・長期的な視点でトレーニングを計画することの必要性を理解する	ピリオダイゼーションのサイクル ピリオダイゼーション周期の考え方 ピリオダイゼーションのパリエーション
トレーニングと疲労およびその回復	5	トレーニング効果を最大化するために、きついことをやるだけでなく、適切な休養を計画的にとる必要性を理解する	超回復モデル フィットネス疲労モデル 変動的に疲労の回復を待たず、フィットネスレベルの維持を念頭に置いた積極的休養が重要

16. 「ジュニア期における身体構造の基礎知識」(担当：西川 壘)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
機能解剖①上半身	5	上半身の骨・関節・筋肉などについて理解する	上半身の骨について大まかに理解する 上半身の関節について大まかに理解する 上半身の筋肉について大まかに理解する
機能解剖②脊柱・体幹	5	脊柱・体幹の骨・関節・筋肉などについて理解する	脊柱の基本構造・骨について大まかに理解する 脊柱の基本構造・関節について大まかに理解する 脊柱の基本構造・筋肉について大まかに理解する
機能解剖③下半身	5	下半身の骨・関節・筋肉などについて理解する	下半身の骨について大まかに理解する 下半身の関節について大まかに理解する 下半身の筋肉について大まかに理解する
発育発達期の身体的特徴	5	子どもと大人の違いを正しく理解する	スキャモンの発育曲線に沿って、大まかな発育のアウトラインを理解する 幼児期から小学生低学年にかけて感覚の発達や神経・筋コントロール能力の向上が著しい 最大酸素摂取量（持久力）はPHV年齢付近で、筋力はPHV年齢以降で急速に発達する
発育発達に応じた運動指導	5	トレーニングを進めていく中で課題を吸収しやすい時期と吸収しにくい時期があることを理解する	トレーニング（遊び）を通じて基本となる身体の動きを獲得しておくことが重要 ゴールデンエイジを迎える前に多様なトレーニング経験を積んでおく 一概に暦年齢のみで判断せず、生物学的年齢の個人差に配慮する
発育発達期に多い怪我	5	発育発達期に起こりやすい怪我にはどのようなものがあるか、なぜ起こりやすいのかを理解する	骨の先端近くにある成長軟骨部に強い力や慢性的なストレスが加わることで成長期ならではの怪我が発生する 筋肉に比べて骨の成長速度が遅いため、一時的に筋肉が硬くなりやすい この時期に起こりやすい怪我の名称や部位を理解し、そのような症状が現れる場合は、すぐに専門家へ判断を要する
女性競技者の身体的特徴①	5	思春期の女性競技者に関わる上での注意点を理解する	女子のPHV年齢は男子に比べて2歳程度早いことを考慮する 女性競技者の三主徴（FTA）を防ぐためには消費エネルギーに見合った摂取エネルギーの確保が重要である 月経周期異常が見られる競技者への対応
女性競技者の身体的特徴②	5	女性競技者に多く見られる怪我について理解する	男性に比べて体脂肪が多く、筋量と骨密度が低い 前十字靭帯損傷と予防プログラム 月経周期異常と疲労骨折

17.「救命・救急処置（応急手当）」（担当：学校法人三幸学園 リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
救助者の自覚	5	応急処置者（ファーストエイド）の使命、役割について学びましょう	応急手当とは何かを学び、学ぶ目的は何かを考えてみましょう 救助者が守るべきこと（自分自身の身を守る、医薬品は使用しない、...）を学びましょう 傷病者への接し方について学びましょう（力づけ、安静、...）
手当の基本	5	怪我をした部位や重症度の見分け方を学びましょう	1次評価 バイタルサインを観察し、緊急性を判断しましょう さらに手当が必要な場合について理解しましょう（心臓停止、気道閉塞、意識消失、頭部外傷、てんかん、大出血など） 2次評価 具体的なけがの様子を確認しましょう
現場での留意点	5	二次被害や感染症から身を守るための方法を学びましょう	周囲の状況の観察の重要性を学びましょう 感染防止に必要なものを用意し、使用方法を確認しましょう

18.「一次救命処置（BLS）」（担当：学校法人三幸学園 リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
救急救命の流れ	5	救命の連鎖を踏まえた効果的な救急救命法について学びましょう	救命の連鎖 救助の要請方法
心肺蘇生法の重要性	5	心肺蘇生法を行うことの意義を学びましょう	心臓の生理学について（全身に血液を送り出す機能） 心停止に陥る要因（不整脈などの基礎疾患、心臓震盪） 救命曲線（カプラーの救命曲線、ドリンカーの生存曲線、除細動が1分遅れるごとに死亡率は7～10%低下する）
気道確保と回復体位	5	意識がない傷病者への安全な対応を学びましょう	意識を失ってしまった場合、気道が塞がり窒息の恐れがある 正しい頭部後屈頸先挙上法の実施方法を学びましょう 回復体位が必要な場合を理解し、実施しましょう
AEDを用いた除細動と心肺蘇生法	5	効果的な心肺蘇生法について学びましょう	心肺蘇生法の手順を理解しましょう AEDの効果、使用方法について理解しましょう 救急隊への引き渡し、心肺蘇生法を中断して良い場合について学びましょう
気道異物除去	5	安全な異物除去方法を学びましょう	気道が詰まる要因を理解し、気道が詰まった際のサインについて学びましょう 気道内異物除去法（背部叩打法、腹部突き上げ法）の実施方法と注意点を理解しましょう 心肺蘇生法への移行について（意識がなくなった場合、心肺蘇生法を行う）
熱中症対応	5	熱中症が発生してしまった場合の対応について学びましょう	熱中症の種類を学びましょう（熱痙攣、熱失神、熱疲労、熱射病） 各症状への救急処置方法を学びましょう

19.「けがに対する手当」（担当：学校法人三幸学園 リゾート＆スポーツ専門学校）

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
きず（開放性と非開放性のきず）	5	きずの種類について学びましょう口	きずの種類（開放性：切創 裂創 割創 擦過創 刺創、非開放性：熱傷、凍傷、打撲、捻挫、骨折） きずの危険性（出血、痛み、細菌感染）を認識しましょう
止血	5	様々な出血に対応した適切な止血法を学びましょう	止血法（直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、直接間接併用法、止血帯法） 感染を防止するための方法を学びましょう その他の止血の対処法を学びましょう（鼻出血）
骨折	5	骨折発生時の適切な対応を学びましょう	骨折とは 代表的な骨折の種類（コレス骨折、鎖骨骨折） 骨折が発生した際の固定法を学びましょう（包帯、三角巾）
頭頸部のけが	5	頭頸部外傷が発生した際の適切な対応について学びましょう	頭頸部外傷とは（脳震盪、脳出血、脳挫傷、脊髄損傷） 評価項目（意識障害、健忘、運動障害、感覚障害） 搬送方法、医療機関の受診
RICE処置	5	けがが発生した際の適切なRICE処置について学びましょう	RICE処置とは 効果的な実施方法（冷却材料、冷却時間、注意点、禁忌）を理解しましょう けがごとのRICE処置について（捻挫、肉離れ、打撲）

【2020 年度作成教材】

20.「部活動におけるトレーニングプログラミング」(担当：西川 壘)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
年間トレーニング計画の策定	5	トレーニングの成果を挙げるために重要な点は、事前に周到な計画を立てることであり、トレーニング計画の立案方法やポイントを理解する。	トレーニングプログラム作成の全体的手順を理解しよう トレーニングの時間構造と中・長期計画について理解しよう ピリオダイゼーションの概念やバリエーションを理解しよう
形態・体力測定	5	トレーニング指導の実態や変化を客観的にとらえ、適切な目標設定や効果測定に活用する。	測定の目的と一般的留意点について理解しよう 形態と身体組成、筋力・筋パワーの測定・評価について理解しよう ジャンプ力、スプリント、アジリティ、柔軟性、持久力、その他の測定・評価について理解しよう
ウォーミングアップとクールダウン	5	ウォーミングアップ、クールダウンの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	ストレッチングの種類と目的について理解する ウォーミングアップの種類と効果、プログラミングについて理解する クールダウンの効果とプログラミングについて理解する
コアトレーニング	5	コアトレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	コアを安定させる基本的なエクササイズ（ドローイン、ブレーシング）について理解する ファンクショナルトレーニングの原理原則を理解する 体幹トレーニングの基礎、プログラミングについて理解する
筋力トレーニング	5	筋力トレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	筋力トレーニングのプログラミングについて理解する トレーニング目的に応じた条件設定、ピリオダイゼーションについて理解する 代表的な筋力トレーニングの方法とプログラミングについて理解する
持久系トレーニング	5	持久系トレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	有酸素性持久力向上トレーニングについて理解する 無酸素性持久力向上トレーニングについて理解する 代表的な持久力を向上させるトレーニング方法とプログラミングについて理解する
スピード・アジリティトレーニング	5	スピード・アジリティトレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	スピードにおける基本動作や動作テクニックについて理解する 代表的なスピードトレーニングの方法とプログラミングについて理解する 代表的なアジリティトレーニングの方法とプログラミングについて理解する
爆発的パワートレーニング	5	爆発的パワートレーニングの目的を理解し、的確な目標設定や効果的なプログラム作成を行えるようになることを目指す。またその実践を自ら行うことができる。	パワーの基本概念やパワーの発揮様式について理解する 代表的なパワートレーニングの方法とプログラム変数、プログラミングについて理解する 代表的なプライオメトリクスの方法とプログラミングについて理解する

21.「チームビルディング」(担当：大橋 恵)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
部活動という集団	5	教育の一環である部活動においては、生徒たちが集団としてまとまり活動していくことが大切であることを理解する。そのために指導者にできることについて考える。	部活動は集団であり、集団規範が働くことを理解する 部員同士で働く、社会的促進について理解する 集団としてまとまりを育てることの重要性を理解する
目標の設定	5	集団としてのまとめるために、適切な目標を設定し、規範形成に配慮するなど具体的に学ぶ。	熟達雰囲気（成達雰囲気）の重要性を理解する（成達雰囲気と対比させて） 目標を持つことの大切さを理解する 自分で決めたことならモチベーションが維持されやすいことを理解する
リーダーシップ	5	部活動のリーダーである指導者には、「目標達成能力」と「集団維持能力」の2つの能力が必要であることを理解する	部活動指導員は、部活においてリーダーとして影響を与える存在であることを理解する リーダーの二つの機能（P機能とM機能）について理解する 専制的なリーダーはメンバーのモチベーションや結束力を低下させるケースが多々あることを理解する
自主性のあるチームとは	5	部活動は、生徒たちの主体的な活動であるべきである。生徒たちが主体性を発揮できる工夫について学ぶ。	自分で決めたことならモチベーションが維持されやすいことを理解する 集団としての効力感を持たせること なるべく部員たちに意見を聞き、部員たちに決めさせよう

22.「配慮が必要な子への対応」(担当：藤後 悦子)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
コミュニケーションが苦手な子	5	コミュニケーションが苦手な生徒、友達とうまく協力できないなど社会性に課題がある生徒の背景を理解する。	①相手の気持ちを想像することが難しい（他者理解の不足）。 ②自分の思う通りにやりたいという衝動性を押さえるのが難しい（衝動性）。 ③客観的に物事を把握することが難しく、思い込みや一度決めたことにこだわってしまう（思考の固定）
コミュニケーションが苦手な子への対応	5	コミュニケーションや社会性に課題がある子ども達への対応の仕方について学ぶ。	①相手の気持ちが見えるような気持ちをセリフとして図にしたり、言葉で説明してあげる。 ②グループ作業の場合、発言時間を同じにするなど工夫したり、ルールから外れた行動の際は、すぐに止めて気づかせる。 ③勝ったとき、負けたときの態度やトラブルになった時の対応を決めておく。例えば、すでに次のゲームをして気分転換させるなど。
指示の理解が難しい子	5	指導者の指示や部活動のルールの理解に困難を抱える生徒の背景を理解する。	①ルールは理解しているが、記憶の力が弱くてすぐに忘れてしまいます（記憶）。 ②ルールのそのものの理解が難しい（理解力）。 ③集中力が続かない（目に入る周りの刺激や周りの音が気になり話に集中できない）。
指示の理解が難しい子への対応	5	指導者の指示や、ルールなどの伝え方の工夫としての視覚的・聴覚的・触覚的・嗅覚的・味覚的・体感的刺激の提示、環境調整などを具体的に学ぶ。	①毎回先にルールを確認する。ルールは守れたらできたらすぐに褒める。 ②視覚的情報を有効に活用する（例：フラッシュカードなどを用いて、視覚的に伝える場所を分かるようにする）。 ③短い言葉で伝え、あいまいな表現は避ける。
不器用な子	5	不器用な生徒が抱える困難さや発達協調性運動障害の子どもの特徴などを理解する。	①自分の身体の位置などがわからない。ボディイメージが形成されていない。 ②2つのことを同時で行うことが難しい。協応性の問題がある。 ③固有覚や前庭覚に課題がある。
不器用な子への対応	5	子どもの不器用さに対する指導の工夫、環境調整の工夫などを具体的に学んでいく。	①スモールステップで課題を細分化する。できたらすぐに褒めるなどの肯定的フィードバックをする。 ②事前確認として活動の前に、動作を先生や友達のマネをしてイメージをつかむ。 ③固有覚や前庭覚を鍛える基本的な運動遊びを日常的に取り入れる。 例：ジャングルジムをくぐる。ブランコで振動運動。ぶら下がるなどの雲梯遊び。力のコントロールができる借りぐらまんじゅうなど。

23.「指導者自身の環境を整える」(担当：井梅 由美子)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
自己理解の重要性	5	生徒とのコミュニケーションをとるうえで、自身の性格特性を知っていることは重要です。自己理解を深めましょう。	エゴグラムを用いて、自分自身の性格を知ることができる。 CPIは批判的な親、NPは養育的な親の側面（傾向）を表している。 それぞれの傾向には良い面・悪い面がある。自身の特徴を知り、活かすことが望ましい。
スポーツ観とは	5	自身のもっているスポーツ観について、考えてみましょう。	スポーツ観とは、自身のもっているスポーツに対する態度や価値観である。 スポーツ活動への参加動機は個人によってさまざまである。 勝利至上主義的なスポーツ観は体罰等さまざまな弊害を生じさせる。
ストレスマネジメント	5	ストレスとの上手な付き合い方について、学びましょう。	ストレス発生の流れは「ストレス源」→「評価」→「ストレス反応（心身）」である。 ストレスをマネジメントするために（上の）それぞれの段階での対処方法（コーピング）がある。 「評価」へのコーピングとして、ストレスを感じたときの状況を書きだしてみる。
ワークライフバランス	5	自身の生活と仕事（キャリア）のバランスについて、考えてみましょう。	ワークライフバランスは私たちがより良く生きる（well being）ことを目指す上で重要である。 人生の各段階に応じて、多様な働き方の選択を可能とする仕事と生活の調和が望まれる。 家族やパートナーとともにそれぞれのワークライフバランスを話し合うことが重要である。

24.「ホワイト部活動の創り方」(担当：中西 純司)

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
生徒の「自治」と多様なニーズを基調とする部活動マネジメントの基本	5	部活動マネジメントの基本的な2つの考え方について理解し、「ブラック部活動」（内田，2017）から「ホワイト部活動」（佐藤ほか，2019）への改革の重要性について学習する。	指導者（顧問）が部活動マネジメントを指導・支援していくうえで、①スポーツ活動が展開される「コートの中」（チーム＝集団）と②スポーツ活動から離れて部を運営する「コートの外」（クラブ＝組織）との関係性を理解しておく必要がある。 「コートの中」の部活動マネジメント（チームマネジメント）と「コートの外」の部活動マネジメント（クラブマネジメント）のバランスを図っていくためには、校内（校務分掌）に「部活動運営組織」（部活動推進会議など）を設置することが必要である。 部活動運営組織は、学校側の組織（顧問会議など）と生徒側の組織（生徒会体育部など）によって構成され、生徒の多様なニーズに対応した、部活動の目標設定と運営方針の検討・決定を行う必要がある。
生徒の自主的・自発的な参加・協働に基づく部活動マネジメントの推進	5	生徒の自主的・自発的な参加・協働に基づく部活動マネジメントを推進するために、指導者（顧問）が習得しておくべき「マネジメントテクニック」（部内のリーダー育成や役割分担など）について学習する。	部活動マネジメントでは、教育活動の一環として、生徒の自主的・自発的な参加と協働を促すような取組を指導・支援することが肝要である。 生徒主体の部活動マネジメントを実現するためには、部内のリーダー育成と役割分担、および学年間の交流を通じて生徒の自治能力を養う必要がある。 生徒主体の部活動マネジメントの基本は、指導者（顧問）が生徒自身で決める事項を設定し、生徒に考えさせる工夫をすることである。
生徒の自主性・自発性を育む部活動「支援」とは	5	部活動マネジメントにおける指導者（顧問）の「管理」でもなく、「放任」でもない、「支援」という最も難しい働きかけと配慮の仕方の機微に迫る。指導とは似て非なる「支援」とは何かを真剣に考える。	支援とは、管理（強制）でもなく、放任（自由）でもない、両者のバランスが求められる人間的行為である。 支援は、他者の行為の意図や目的を理解したうえで働きかけと配慮が前提となる。 支援は、他者の行為の質を維持・改善する一連のアクションであり、他者のエンパワーメント（自立性・自律性）を促すことが重要である。
顧問（部活動指導員）に求められる「コンピテンシー」とは	5	指導者（顧問）が部活動マネジメントを実践していくうえで求められる「コンピテンシー」とは何かを学習する。	コンピテンシーとは、職能ないしは専門的力量を意味し、「特定の課題を遂行する、あるいは明確な職務や役割を引き受けることのできる人間の適性・資質や知識・能力」である。 部活動指導員には、①教育者適性能力、②指導・コーチング能力、③スポーツの経営能力、④ホスピタリティ能力といった4つのコンピテンシーが求められる。 部活動指導員のコンピテンシー獲得・形成は、生徒主体の部活動マネジメントを推進するうえできわめて重要である。

25. 「部活動改革の取り組み事例」（担当：中西 純司）

分野	タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
マネジメント	中学校部活動を支える総合型地域スポーツクラブ ～長野市立東北中学校～	5	中学校の運動部活動のサポート（支援）を総合型地域スポーツクラブが行っている事例について学ぶ。	生徒のニーズや声に応え、総合型地域スポーツクラブが部活動支援を行っている。 1つの中学校単位では部活動を維持できない状況を「スポーツ東北地域クラブ」によってサポートしている。 学社連携型部活動の先進的な事例である。
マネジメント	スポーツ少年団と一体化した中学校部活動 ～仙台市立大沢中学校～	5	スポーツ少年団（中学生団員）と中学校部活動（野球部）とが密接に連携して部活動運営を行っている事例について学ぶ。	生徒を中心に、学校～地域～保護者の連携・協力関係が形成されている。 学校の教育活動を理解した良好な連携・協力体制が維持されている。 中学校区内の2つの小学校とも連携し、3校合同練習会が年2回実施されている。
マネジメント	学社融合で豊かなスポーツライフを実現する高校部活動 ～大阪教育大学附属高等学校平野校舎～	5	児童生徒の豊かなスポーツライフの実現をめざして、高校教員が率先して部活動と総合型地域スポーツクラブの融合を図ろうとする先駆的な事例を学ぶ。令和5年度以降の「地域部活動」（スポーツ）に対応した希少な事例でもある。	大学附属の強みを活かし、小・中・高の教員間連携・協力による部活動改革である。 高校卒業生（OB・OG）の部活動支援と生徒会組織を活かした部活動改革である。 PTA組織および近隣住民の参加と協力に基づく総合型地域スポーツクラブの育成でもある。

尚、教材作成の基本構成決定時に参考にしたスポーツ庁「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に例示されている研修（案）への本事業プログラムの対応は以下の通りである。

スポーツ庁例示項目	対応章	ユニット例	領域
部活動指導員制度の概要 （身分・職務・勤務形態、報酬・費用弁償、災害補償等）	部活動指導員の職責と自覚	・部活動指導員の役割	教育
学校教育及び学習指導要領	学校の組織的理解	・学校運営における組織体制 ・組織における校務とその概要	マネジメント
部活動の意義及び位置づけ	部活動の位置づけ	・課外活動（部活動）の位置づけ ・部活動の教育的意義 ・部活動の社会的意義	教育
服務 （校長の監督を受けること、生徒の人格を傷つける言動や体罰が禁止されていること、保護者等の信頼を損なうような行為の禁止）	学校の組織的理解 部活動指導とハラスメント	・学校運営における組織体制 ・組織における校務とその概要 ・スポーツにおけるハラスメントとその具体例 ・部活動指導に見られるハラスメントの実態	マネジメント 教育
生徒の発達段階に応じた科学的な指導	ジュニア期における身体構造の基礎知識	・発育発達期の身体的特徴 ・発育発達に応じた運動指導	指導法
顧問や部活動を担当する教諭等との情報共有	部活動の運営Ⅰ（管理）	・教諭等との連携	マネジメント
安全・障害予防に関する知識・技能の習得	部活動の運営Ⅲ（安全管理と法的責任）	・教育現場における安全管理の法的責任 ・教育現場における安全管理の義務 ・部活動における負傷・疾病の実態	安全管理
生徒指導に係る対応	プレイヤー（児童・生徒）の理解	・児童・生徒の身体的発達 ・学校生活の理解（仲間との関係）	教育
事故が発生した場合の現場対応	部活動の運営Ⅳ（安全管理体制の構築） 部活動の運営Ⅴ（事後対応と再発防止）	・学校における体制整備（緊急事態発生時の体制） ・報告再発防止等	安全管理
女子生徒や障害のある生徒などへの対応	ジュニア期における身体構造の基礎知識 配慮が必要な子への対応	・女性競技者の身体的特徴 ・コミュニケーションが苦手な子への対応 ・指示の理解が難しい子への対応	指導法 教育
保護者等への対応	プレイヤー（児童・生徒）の理解	・家庭生活の理解	教育
部活動の管理運営	部活動の運営Ⅰ（管理）	・事務手続き	マネジメント

2) 学習プログラムを活用した今後の普及について

開発した 128 ユニット（約 640 分）の学習プログラムを累計 4081 名の検証実施した実績をもとに、既に部活動指導員の導入や研修が始まっている自治体・教育委員会への説明・並びに情報交換を積極的に行っていく。

既に人材バンク構想含め、部活動指導のアウトソーシングを推進している自治体においても、取り組みを進めている上で感じる課題などをヒアリングし、本事業がフォローできるポイントなどの発見に繋がっていきたいと考えている。

本事業が提供するリカレント教育を通じた専門人材介入による教員の働き方改革、生徒たちの適切な学校部活動環境の整備だけでなく、アスリートのデュアルキャリアとしての新たな選択肢や、トレーナー・インストラクターといった身体の特長が活かせる新たなステージの創出へと繋がるような発展を目指していきたい。

尚、多くの自治体・団体への普及に向けランディングページを自主制作し、登録等の問い合わせを受け付けている。

【ランディングページ】



QRコード



成果報告会当日資料

学校法人 三幸学園

2020年度文部科学省委託事業
専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト
「部活動指導員養成事業」 成果報告会



開始までしばらくお待ちください

2021年2月8日（月） 9:30～11:30

 **Tokyo Resort Sports**

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

2020年度文部科学省委託事業
専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト
「部活動指導員養成事業」 成果報告会

2021年2月8日（月） 9:30～11:30

 **Tokyo Resort Sports**

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

- 理事長挨拶
- 来賓挨拶
- 事業概要
- 今年度の取り組み「開発」
- 今年度の取り組み「普及」
- 事業総括
- 質疑応答・意見交換
- 識者評価
- 連絡事項

 **Tokyo Resort Sports**

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

理事長挨拶

学校法人 三幸学園
理事長 昼間 一彦

 **Tokyo Resort Sports**

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

来賓挨拶

文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課
専修学校教育振興室
室長 金城 太一 様

 **Tokyo Resort Sports**

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

事業概要

学校法人 三幸学園 東京リゾート＆スポーツ専門学校
主任 兼子 大次郎

 **Tokyo Resort Sports**

©2020 Sankei Gakuen

事業主体と2019年度までの成果

学校法人三幸学園
 ・リゾート＆スポーツ専門学校（仙台・千葉・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・福岡・沖縄）
 ・スポーツ＆メディカル専門学校（札幌）
 ・キッズ大陸（さいたま市・あだち北千住・よこはま中川・しょうなん辻堂）

【事前調査】
 ■社会人の学び直しにおける教材の在り方について
 →教材のハード面を設定する上での方向性策定
 ■既存の「部活動指導員養成研修」に関する調査
 →作成する教材の分野（内容）策定

【教材作成】
 ■教育・安全管理・指導法・マネジメントの4分野の教材を作成
 →98ユニットを作成

【普及・検証】
 ■法人内部を中心に3291名に検証を実施
 ■市区町村教育委員会への教材紹介及び成果報告の実施

ブカリゼミ
 CLUB COACH ACADEMY

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

本事業の目的

本事業で開発した
Eラーニング教材・研修

他の専修学校へ普及

社会人学び直しの
機会拡大

「人生100年時代」到来に備えた
柔軟に学びと働きを往來する社会体制整備の必要

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

本事業の課題へのアプローチ

本事業で開発した
Eラーニング教材・研修

小・中学校
高等学校の部活動現場へ派遣

教員の働き方改革

部活動指導における長時間労働や、専門知識不足によるミスマッチなど
働き方改革へのアプローチ

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

3か年の事業全体像

事前情報収集（保育実績含）
教材カリキュラム開発

Eラーニング教材・研修
開発・効果検証

教材の公開による
他の専修学校での展開
自治体への学び直し機会提供

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

事業紹介PR動画

部活動指導員養成事業

部活動の活動目標の設定

学校現場で
部活動の指導や指導の
ノウハウを伝える

三幸学園
東京リゾート＆スポーツ専門学校

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

今年度の事業活動

教材カリキュラム開発
改修・新規開発

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

■今年度の事業活動

教材検証・普及

Tokyo Resort®Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

■事業実施体制

実施委員会

＜目的・役割＞
・事業全体の方向性策定
・スケジュール管理

分科会① 開発チーム

＜目的・役割＞
・事前調査
・カリキュラム開発・実施

分科会② 普及チーム

＜目的・役割＞
・外部機関への協力要請
・実証講座準備・実施

調査協力

＜目的・役割＞
・事前調査及び教材検証への協力

＜協力団体＞
分科会委員と連携実績のある自治体・教育委員会及び学校
(横浜市・名古屋市)

▼教育機関

- ・開発に先立った事前調査の協力要請及び実施
- ・事前調査の結果をもとにしたカリキュラム開発
- ・eラーニング教材開発
- ・対面講座開発・実施

▼企業・業界団体

- ・開発に先立った事前調査の協力要請
- ・教材開発に伴う資料提供
- ・対面講座実施に伴う協力
- ・開発教材の普及

▼行政機関

- ・既存の研修内容共有
- ・部活動指導員受け入れ校への調査協力依頼
- ・受講生の派遣先学校への協力要請
- ・既存指導員及び学校への教材普及

Tokyo Resort®Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

■実施委員

・事業全体の方向性策定
・スケジュール管理

氏名	所属（学校・団体・企業）	職名
石塚 大輔	スポーツターナメント株式会社	代表取締役
井原 敦	（一社）日本野球機構	事務局長
岩淵 健輔	（公財）日本ラグビーフットボール協会	専務理事
大橋 一夫	名古屋市教育委員会	生涯学習課 部活動振興係主任指導主事
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	主任
鈴木 岳	株式会社R-body project	代表取締役
高岡 昌弘	学校法人三幸学園	統括部門長
藤後 悦子	東京未来大学	こども心理学部 教授
中西 純司	立命館大学	産業社会学部 教授
新田 広一郎	大塚製薬株式会社	執行役員
平岡 拓晃	筑波大学	体育系 体育センター 助教
松村 剛	（一社）日本フィットネス産業協会	会員事業統括マネージャー

Tokyo Resort®Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

■分科会①「開発」委員

・過去の調査結果及び学園内の実績集約
・カリキュラム開発及び実施

氏名	所属（学校・団体・企業）	職名	担当
荒井 秀幸	株式会社R-body project	テクニカルマネージャー	指導法
井梅 由美子	東京未来大学	こども心理学部 准教授	教育
大橋 恵	東京未来大学	こども心理学部 教授	教育
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	主任	事務局
高岡 昌弘	学校法人三幸学園	統括部門長	事務局
藤後 悦子	東京未来大学	こども心理学部 教授	教育
中西 純司	立命館大学	産業社会学部 教授	マネジメント
西川 豊	株式会社ナズー	アスレティックトレーナー	指導法
平岡 拓晃	筑波大学	体育系 体育センター 助教	教育・指導法

Tokyo Resort®Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

■分科会②「普及」委員

・外部機関への協力要請
・実証講座準備及び実施

氏名	所属（学校・団体・企業）	職名
倉田 隆太	福岡リゾート＆スポーツ専門学校	副校長
石塚 大輔	スポーツターナメント株式会社	代表取締役
岩淵 健輔	（公財）日本ラグビーフットボール協会	専務理事
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	主任
小久保 和典	名古屋リゾート＆スポーツ専門学校	副校長
小崎 順平	大塚製薬株式会社	ニュートラシューティカルズ事業部
斎藤 政臣	横浜リゾート＆スポーツ専門学校	副校長
嶋 理恵子	（一社）日本野球機構	野球運営本部 課長
高岡 昌弘	学校法人三幸学園	統括部門長
寺澤 正典	仙台リゾート＆スポーツ専門学校	副校長
早坂 達	札幌スポーツ＆メディカル専門学校	副校長
松村 剛	（一社）日本フィットネス産業協会	会員事業統括マネージャー
渡邊 慧	大阪リゾート＆スポーツ専門学校	副校長

Tokyo Resort®Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

今年度の取り組み「開発」

学校法人 三幸学園 東京リゾート＆スポーツ専門学校
主任 兼子 大次郎

Tokyo Resort®Sports

©2020 Sanko Gakuen

■ 分科会①「開発」委員

・過去の調査結果及び学園内の実績集約
・カリキュラム開発及び実施

氏名	所属（学校・団体・企業）	職名	担当
荒井 秀幸	株式会社R-body project	テクニカルマネージャー	指導法
井梅 由美子	東京未来大学	こども心理学部 准教授	教育
大橋 恵	東京未来大学	こども心理学部 教授	教育
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	主任	事務局
高岡 昌弘	学校法人三幸学園	統括部門長	事務局
藤後 悦子	東京未来大学	こども心理学部 教授	教育
中西 純司	立命館大学	産業社会学部 教授	マネジメント
西川 豊	株式会社ナース	アスレティックトレーナー	指導法
平岡 拓晃	筑波大学	体育系 体育センター 助教	教育・指導法

Tokyo Resort® Sports

©2020 Sanko Gakuen

■ 分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修

2) プログラム開発

Tokyo Resort® Sports

©2020 Sanko Gakuen

■ 分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

2018年度事前調査及び実証講座より定めた方向性

学び直し及びその成果に対する不安・懸念

「学び直しの成果に対する不安」

- ・実際の活動に役立つのか
- ・事例などは学べるのか
- ・実務経験者から学べるのか

Tokyo Resort® Sports

©2020 Sanko Gakuen

■ 分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

社会人の学び直しが進んでいない課題②

学習開始時の費用負担、とくに初期費用に対する負担感

「学習費用に対する不安」

- ・授業料の捻出
- ・まとまった額は用意が難しい
- ・特に初期費用に対する負担感

Tokyo Resort® Sports

©2020 Sanko Gakuen

■ 分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

社会人の学び直しが進んでいない課題③

学習時間や学習する時間帯についての不安

「学習時間に対する不安」

- ・まとまった時間の確保が難しい
- ・通学スタイルは難しい
- ・定例での時間確保が難しい

Tokyo Resort® Sports

©2020 Sanko Gakuen

■ 分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

保育分野の調査・実証実績

ー1ユニット5分の評価ー

「学習時間に関する調査」

- ・1ユニットあたり5分程度の目安

Tokyo Resort® Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

保育分野の調査・実証実績より

Q: 今後、どのような教材があればよいと思いますか

①より具体的な場面を想定した教材

- 実際に起こり得る様々なシチュエーションの対応例などが知りたい
- 今回と同じ題材で、もう少し具体的な内容のものがあるとさらに理解が深まる。

②職員との関わり方の教材

- 先着後輩との関わり方
- 職員同士の連携
- 後輩との関わり、園長先生と後輩のバリエーションづくり
- 後輩指導の仕方について。例えば、仕事に対する向き合い方が不真面目な後輩、伝えたことが伝わらない後輩などに対する対応の仕方。また、そういう後輩への仕事の振り分け方など。

具体例を盛り込んだ
ケーススタディ

部活動・学校現場に関する
連携や体制の理解

「教材内容に関する調査」

- ・シーンが想定できるもの
- ・ケーススタディなど
- ・実際の現場組織がイメージできるもの

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

保育分野の調査・実証実績より

Q: 今後、どのような教材があればよいと思いますか

③「主任」の役割を取り上げた教材

- ・主任の役割や保育内容、子どもの発達や心理について
- ・主任としての役割

部活動指導員の役割
携わる生徒の発達や心理の理解

「教材内容に関する調査」

- ・部活動指導員の職責
- ・多様な生徒への対応

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

■実践的な内容
→ケーススタディを交えた実践的な内容を中心とする教材とする

■教材の流れ
→導入からまとめまでシーン想定をしながら進める（次スライド）

■受講における費用軽減
→継続的に無償での公開とする

■受講にかかる時間負担軽減
→1つのユニットは5分を目安とし、PCだけでなくスマートフォンやタブレットなど様々なデバイスからもアクセスできる教材

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

ストーリーの挿入による
シーンの想定

ねらいを明確にし、
限られた時間での
効率的な学習

物語

登場人物

問題

解決

まとめ

学習のねらい

学習のねらい

学習のねらい

学習のねらい

学習のねらい

ねらい

ねらい

ねらい

ねらい

ねらい

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

教育(ハラスメント含)

指導法

安全管理

マナー

◆事業計画・教材概要策定に向けて参考にしたガイドライン等

- 『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』スポーツ庁 (2018)
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shing/013_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/03/19/1402624_1.pdf
- 『学校の危機管理マニュアル作成の手引き』文部科学省 (2018)
https://www.mext.go.jp/s_menu/kenko/anzen/_icsFiles/afieldfile/2019/05/07/1401870_01.pdf
- 『都道府県・指定都市スポーツ主管課長会議（第1回）配布資料』スポーツ庁 (2017)
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shing/010_index/shiryo/attach/1377942.htm
- 『学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について』スポーツ庁 (2017)
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/hakusho/nc/1383344.htm
- 『運動部活動での指導のガイドライン』文部科学省 (2013)
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/12/1372445_1.pdf
- 『運動部活動の実態に関する調査』文部科学省 (1997)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shing/chukyo/chukyo/009/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2011/09/14/1310757_04.pdf
- 『仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章』内閣府 男女共同参画局 仕事と生活の調和推進室 (2017)
http://www.cao.go.jp/wlb/government/20banner_html/20html/charter.html

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

教育(ハラスメント含)

運動部活動に携わる指導者としての資質を身に付ける

公教育に携わる指導者としての素地を身に付ける

Ex: 「部活動指導員が起こし得る問題(ハラスメント)」
「教育制度と部活動」
「部活動を取り巻く社会的変遷」

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

安全管理

・安全管理の為の環境整備と緊急時の対応を身に付ける

Ex:) 「教育現場における安全管理の法的責任」
「部活動現場における負傷・疾病の実態」
「学校における体制整備(緊急事態発生時の体制)」

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

指導法

・個の発達段階に応じた指導法を身に付ける

Ex:) 「スポーツにおけるコーチング」
「スポーツ指導の基本原則」
「スポーツにおける暴力根絶に向けて」

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー初年度事前調査より

マネジメント

・公教育におけるマネジメントスキルを身に付ける

Ex:) 「学校における組織体制」
「部活動指導員の具体的業務」
「部活動組織のマネジメント」

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

1) プログラム改修 ー2018-2019年度検証を踏まえた改修点

- 場面設定がよりイメージできるような工夫がほしい
⇒冒頭シーンにナレーションを追加 (2019年度対応済)
- より深く学べるような導きが欲しい
⇒サイト内表記であった参考文献を教材内に挿入 (2019年度対応済)
- 疾病の様子や動作など写真などを加えた方が良いのではないか
⇒【指導法】「部活動におけるトレーニングプログラミング」において、複数動作の写真を掲載
- 全国での活動や取り組み事例を把握できたら良いのではないか
⇒【マネジメント】「部活動改革の取り組み事例」にて3校を掲載
- 実際の活動プログラムの立案などが学びたい
⇒【指導法】「年間トレーニング計画の策定」において掲載

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発

(2018-2019) 作成 : 98ユニット (ガイダンス含む)

教育 : 38ユニット

指導法 : 28ユニット

安全管理 : 22ユニット

マネジメント : 8ユニット

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発

(2020) 作成教材

教育 : 14ユニット

指導法 : 8ユニット

安全管理 : 0ユニット

マネジメント : 7ユニット

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園
SANKO GAKUEN

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発
(2018-2020) 累計作成：128ユニット（ガイダンス含む）

教育：52ユニット
指導法：36ユニット
安全管理：22ユニット
マネジメント：15ユニット

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園
SANKO GAKUEN

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発 （2020）作成教材

指導法 「部活動におけるトレーニングプログラミング」

- 年間トレーニング計画の策定
- 形態・体力測定
- ウォーミングアップとクールダウン
- コアトレーニング
- 筋力トレーニング
- 持久力トレーニング
- スピード・アジリティトレーニング
- 爆発的パワートレーニング

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園
SANKO GAKUEN

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発 （2020）作成教材

教育 「チームビルディング」

- 部活動という集団
- 目標の設定
- リーダーシップ
- 自主性のあるチームとは

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園
SANKO GAKUEN

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発 （2020）作成教材

教育 「配慮が必要な子への対応」

- コミュニケーションが苦手な子
- コミュニケーションが苦手な子への対応
- 指示の理解が難しい子
- 指示の理解が難しい子への対応
- 不器用な子
- 不器用な子への対応

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園
SANKO GAKUEN

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発 （2020）作成教材

教育 「指導者自身の環境を整える」

- 自己理解の重要性
- スポーツ観とは
- ストレスマネジメント
- ワークライフバランス

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校 三幸学園
SANKO GAKUEN

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発 （2020）作成教材

マネジメント 「ホワイト部活動の創り方」

- 生徒の「自治」と多様なニーズを基調とする部活動マネジメントの基本
- 生徒の自主的・自発的な参加・協働に基づく部活動マネジメントの推進
- 生徒の自主性・自発性を育む部活動「支援」とは
- 顧問（部活動指導員）に求められる「コンピテンシー」とは

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発 (2020) 作成教材

マネジメント 「部活動改革の取り組み事例」

- 中学校部活動を支える総合型地域スポーツクラブ
ー長野市立東北中学校
- スポーツ少年団と一体化した中学校部活動
ー仙台市立大沢中学校
- 学社融合で豊かなスポーツライフを実現する高校部活動
ー大阪教育大学付属高等学校平野校舎

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

■分科会①「開発」目的・役割

2) プログラム開発 (2020) 作成教材

III-23-4
ワークライフバランス

ワークライフバランス

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

謝辞

渡辺 千歳 先生	東京未来大学 こども心理学部 教授
松田 雅彦 先生	大阪教育大学付属高等学校 平野校舎SGH推進委員長
内山 智之 先生	東京リポート&スポーツ専門学校 専任講師・アスレティックトレーナー
原 毅 先生	長野市立東北中学校 教頭

教材作成にあたり、多くの方々にご支援いただきました。
ご多忙な中ご協力頂きましたみなさまに心から感謝いたします。

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

今年度の取り組み「普及」

学校法人三幸学園 東京リポート&スポーツ専門学校
統括部門長 高岡 昌弘

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

■分科会②「普及」委員

氏名	所属 (学校・団体・企業)	職名
會田 隆太	福岡リポート&スポーツ専門学校	副校長
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社	代表取締役
岩淵 健輔	(公財) 日本ラグビーフットボール協会	専務理事
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	主任
小久保 和典	名古屋リポート&スポーツ専門学校	副校長
小崎 順平	大塚製薬株式会社	ニュートラシューティカルズ事業部
斎藤 政臣	横浜リポート&スポーツ専門学校	副校長
嶋 理恵子	(一社) 日本野球機構	野球運営本部 課長
高岡 昌弘	学校法人三幸学園	統括部門長
寺澤 正典	仙台リポート&スポーツ専門学校	副校長
早坂 達	札幌スポーツ&メディカル専門学校	副校長
松村 剛	(一社) 日本フィットネス産業協会	会員事業統括マネージャー
渡邊 慧	大阪リポート&スポーツ専門学校	副校長

Tokyo Resort Sports

©2020 Sanko Gakuen

学校法人 三幸学園

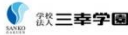
■分科会②「普及」目的・役割

1) プログラム検証ー概要・結果

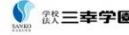
2) プログラム普及準備

Tokyo Resort Sports

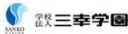
©2020 Sanko Gakuen


分科会②「普及」目的・役割
1) プログラム検証ー概要
 ■対象：学校法人三幸学園リゾート&スポーツ専門学校在校生及び教員、
 幼児体育指導員・スポーツ幼児園運営者
 ■時期：2021年1月～2月（※継続実施中）
 ■方法：eラーニング学習教材受講後にWEBアンケート回答
 ■回答数：421名（2月4日現在）
 ■設問：3分類全13問
 （1）受講対象の属性を問う設問
 （2）教材仕様に関する設問
 （3）教材内容に関する設問


 ©2020 Sankei Gakuin


分科会②「普及」目的・役割
1) プログラム検証ー概要
 □受講対象（属性）を問う設問
 ①これまでの運動指導歴について教えてください
 （自由記述）
 □教材仕様に関する設問
 ①1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか
 （適切・多い・やや多い・やや少ない・少ない）
 ②上記設問において「多い」もしくは「少ない」を選択された方にお聞きします。
 具体的にはどのくらいの情報量が適切だと感じますか
 （自由記述）

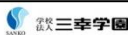

 ©2020 Sankei Gakuin

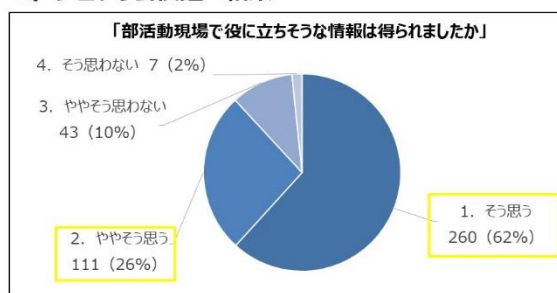

分科会②「普及」目的・役割
 □教材内容に関する設問
 ①部活動現場で役に立ちそうな情報が得られましたか
 （そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない）
 ②上記設問において「そう思う」「ややそう思う」を選択された方にお聞きします。
 具体的にどのような部分が役に立つと感じましたか
 （自由記述）
 ③得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか
 （そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない）
 ④部活動指導員としての素地が得られる実感はありましたか
 （そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない）
 ⑤プログラム内容はタイトルに対して適切なものでしたか
 （そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない）


 ©2020 Sankei Gakuin


分科会②「普及」目的・役割
 ⑥更に学習してみようという意欲は湧きましたか
 （そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない）
 ⑦コンテンツ内容は随時更新予定です。今後も利用したいですか
 （そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない）
 ⑧教材において不足している内容、他に得ることが出来たらよいと思う情報はありますか
 ⑨今後どのような内容の教材があればよいと思いますか。具体的に教えてください。
 ⑩プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ（わかり難いと感じたところ）など
 自由に記述してください
 【全13問】

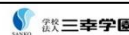

 ©2020 Sankei Gakuin


分科会②「普及」目的・役割
1) プログラム検証ー結果
「部活動現場で役に立ちそうな情報は得られましたか」



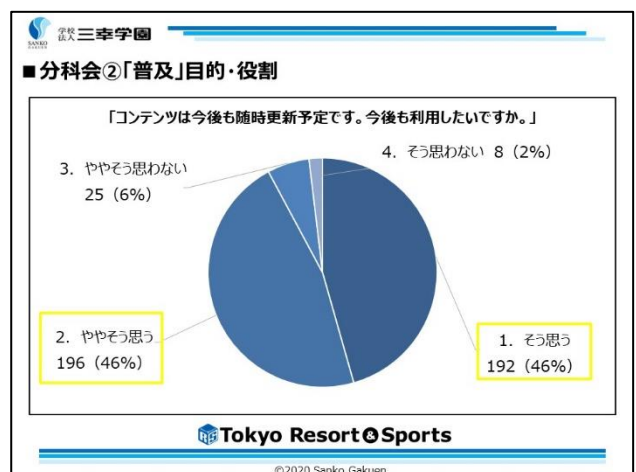
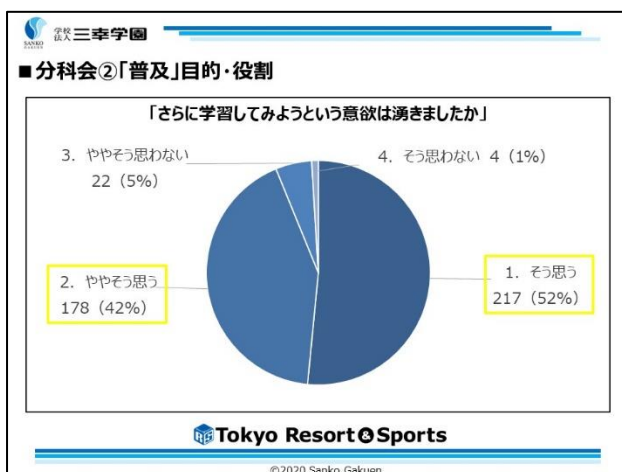
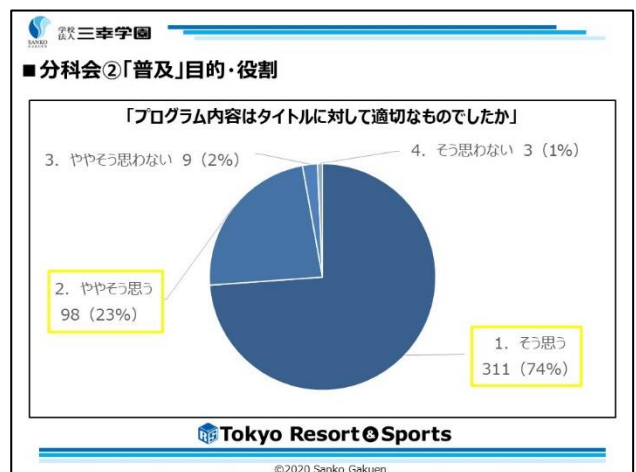
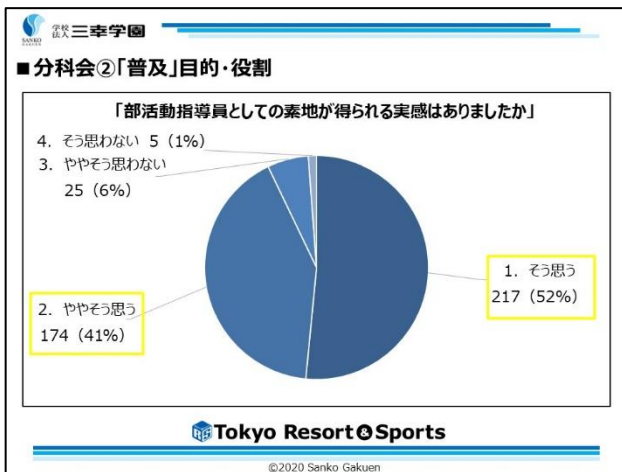
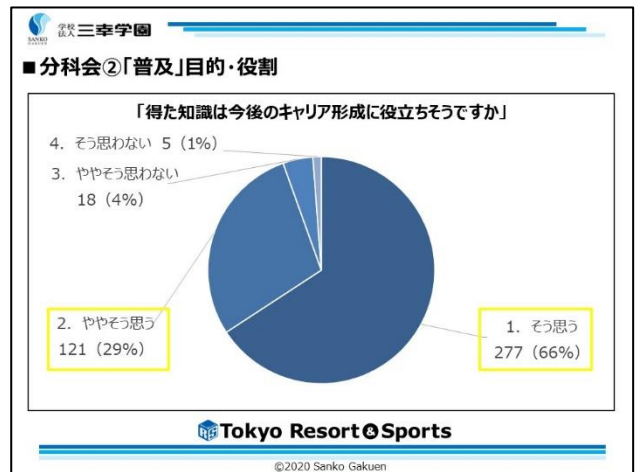
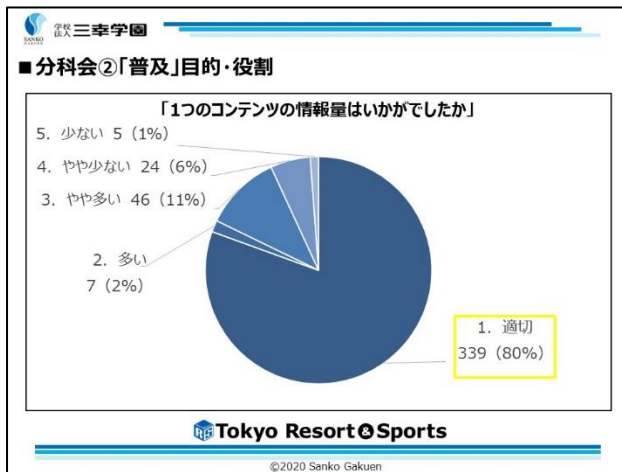
回答	人数	割合
1. そう思う	260	62%
2. ややそう思う	111	26%
3. ややそう思わない	43	10%
4. そう思わない	7	2%


 ©2020 Sankei Gakuin


分科会②「普及」目的・役割
「部活動現場で役に立ちそうな情報は得られましたか」ー記述（抜粋）

- この知識を知っているのと知らないのでは、そういう子がいた場合気づけるか気づけないか、雲泥の差だと思う。この動画を見た事で少しでも異変がある子に気づけることに繋がると感じた。
- 会話部分があって導入がわかりやすかった。
- 競技に特化した技術指導ではなく、そもそもの体の使い方をハードルの低いことからやっていく（体づくり運動）ことの大切さを改めて感じた。
- 指導者も人間であり、無意識の中で不適切な対応が見られることもあると思うのでまずは自己理解を深めることが大切だと思いました。
- 自分自身が指導者として、選手と関わった時に感じるストレスをどのように対処していけば良いか、具体的な行動案が勉強になった。
- 部活動ではただ勝利を目指して練習するのではなく、人間としての力を身に付ける場所だと思うので共感出来た。


 ©2020 Sankei Gakuin



学校法人 三幸学園

事業総括

学校法人三幸学園 東京リゾート&スポーツ専門学校
統括部門長 高岡 昌弘

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

■事業総括

2018年度
「開発」：46ユニット（約230分） / 「普及」：315名

2019年度
「開発」：52ユニット（約260分） / 「普及」：2976名

2020年度
「開発」：30ユニット（約150分） / 「普及」：421名 ※（2月5日以降）

2018-2020年度累計
「開発」：128ユニット（約640分） / 「普及」：3,712名
※継続検証実施予定

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

■事業総括

教育（52） 指導法（36） 安全管理（22） マネジメント（15）

作成教材タイトル一覧

1. 学校の組織的理解 (2ユニット)	2. スポーツの文化的理解 (3ユニット)	3. 部活動の位置づけ (9ユニット)	4. 部活動指導員の 職責の自覚 (6ユニット)	5. プレイヤー (児童・生徒) の理解 (6ユニット)
6. 部活動の運営Ⅰ (管理) (4ユニット)	7. 部活動の運営Ⅱ (指導) (2ユニット)	8. 部活動の運営Ⅲ (安全管理と法的責任) (3ユニット)	9. 部活動の運営Ⅳ (安全管理体制の構築) (3ユニット)	10. 部活動の運営Ⅴ (事後対応と再発防止) (2ユニット)
11. 部活動指導と コーチング原理 (5ユニット)	12. 部活動指導と フィードバック (6ユニット)	13. 部活動指導と コーチングフィードバック (8ユニット)	14. 部活動指導と メンタルマネジメント (8ユニット)	15. トレーニング基礎 (7ユニット)
16. ジュニア期における 身体構造の基礎知識 (8ユニット)	17. 救命救急処置 (応急手当) (3ユニット)	18. 一時救命処置 (BLS) (6ユニット)	19. けがに対する手当 (5ユニット)	20. 部活動における トレーニングプログラミング (8ユニット)
21. チームビルディング (4ユニット)	22. 配慮が必要な子への 対応 (6ユニット)	23. 指導者自身の 環境を整える (4ユニット)	24. 「ホワイト部活動」の 創り方 (3ユニット)	25. 部活動改革の 取り組み事例 (4ユニット)

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

質疑応答・意見交換

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

連絡事項

Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

学校法人 三幸学園

■連絡事項

令和2年度 専修学校における先端技術利活用実証研究
「スポーツ及び保育人材育成における先端技術を利用した学習成果検証事業」
☞先端技術（VR,AR,自由視点映像等）を活用した
教材の開発・実証・研究を行う事業実施

◇対面講義・遠隔教育受講時の学習効果測定・比較
◇オンデマンド教材の一部を静止画・自由視点動画とした際の学習効果測定・比較



Tokyo Resort Sports

©2020 Sankei Gakuen

識者評価

学校法人三幸学園
理事長特別補佐（戦略担当） 伊藤 健二

 Tokyo Resort & Sports

©2020 Sankei Gakuen

皆さまより多くの貴重なご示唆を賜り、
無事に三カ年事業を終えることができました。
事務局一同、心より御礼申し上げます。

 Tokyo Resort & Sports

©2020 Sankei Gakuen

謝辭

東京未来大学 こども心理学部 教授 渡辺 千歳先生
大阪教育大学附属高等学校 平野校舎 SGH 推進委員長 松田 雅彦先生
東京リゾート＆スポーツ専門学校 アスレティックトレーナー 内山 智之先生

本事業での学習プログラム作成にあたり、
専門知識をもとに、多大なるご協力を賜りました皆さまに心から感謝申し上げます。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、
学校法人三幸学園 東京リゾート & スポーツ専門学校が実施した
令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」の成果をとりまとめたものです。

令和2年度 文部科学省委託事業
専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト
部活動指導員養成事業

成 果 報 告 書

令和3年2月印刷
学校法人三幸学園 東京リゾート & スポーツ専門学校

〒113-0033
東京都文京区本郷 4-12-6